


<h1>「夢」</h1> <p>振だより</p>		<p>憲章</p> <p>みんなが自分の「夢」を持っている          「夢」を持ち続けることは生きる証          ふくらんだ「夢」は明日への力となる          「夢」の実現には努力がいる          「夢」の輪を広げよう          みんなの「夢」は日本中の人の「夢」につながる          徳之島の「夢」を世界の「夢」の輪にしよう</p>
<p><b>第17号 YUMESHIN</b></p>	<p>発行所 NPO 法人徳之島「夢」振興会議本部事務局 編集 松元 啓一郎 他          〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-25-15 IBビル2階(池袋西口・津田事務所)          TEL03-3987-4641 FAX03-5953-5622          「夢」振・フラワー事務局〒141-0022 東京都品川区東五反田3-20-10-101          ユイワークサポート内 TEL03-5449-8321 FAX03-5449-0347          徳之島事務所 〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津1081 重岡 堯夫方          TEL/FAX : 0997-83-3090</p>	
 <p>徳之島「夢」振興会議          ロゴマークの説明</p> <p>「夢」の実生(みしよう=種から芽を出して成長すること)を表現          色彩・・・花は紅の情熱、葉は緑の活力          葉・・・双葉は象形文字の無限大、若芽は未来          花・・・歓喜・夢の表現</p>	<p><a href="http://www.tokunoshima-yumeshin.or.jp/">http://www.tokunoshima-yumeshin.or.jp/</a>          「夢」振興会議のホームページでもごらんになれます</p>	



## 新しい徳之島がやって来る

NPO 法人徳之島「夢」振興会議 理事長 横田捷宏

故郷徳之島では、20年にわたった国営の農業ダム建設、揚水機場、用水路等の整備が昨年度に終了し、引き続き鹿児島県が事業主体の畑地かんがい施設等の整備が平成33年度完成を目指して進められています。日本の離島では最高の農業適地と期待されていた徳之島が、畜産を含めその潜在能力を存分に発揮する日もそう遠くないでしょう。ユネスコへの世界自然遺産登録申請も、政府直々の仕切り直しにより、奄美・沖縄の4島一体で認められることになるでしょうから、これまで取り組まれてきたエコツーリズム等の諸対策も地元を中心に間断なく進められるでしょう。これらの主役は徳之島であり、島人(しまんちゅ)であることは言うまでもありませんが、島を離れた私たちも出来るだけ島人の努力を応援していきたいものです。本年も「夢」振興会議は、会員皆様のご努力と徳之島関係を中心とする多くの方々の支援により、何とか所期の目標を果たすことができました。徳之島へは5月と9月の2度にわたり夢振チームが訪問しましたが、重岡所長・副理事長を始めとする現地の幹部会員のお陰で島との絆がさらに深まったと感謝しております。

夢振の本年最初の活動は、恒例化した2月第3土曜日の東京代々木公園での徳之島観光物産展でした。大変な好天に恵まれ約2万人が訪れたとされ、島のジャガイモ春一番やたんかんなどはお昼過ぎに完売、夢振を含む各テナントの売り場でも食べ物や焼酎などがどんどん売れて、フェア途中で閉店を余儀なくされた店も目立ちました。物産販売についてはいつも宮原理事に頼りっきり、会員はもっぱら購買、消費に回ることが多いのですが、この日は多数の女性会員が販売、サービスに当たって下さいました。それにしても、夢振の幟や法被は目立つ良いデザインで作られたものと思います。10月には、大田区産業会館で信用金庫グループが主催した産業・物産フェアに宮原理事のお陰で夢振の小間が出て、焼酎が良く売れました。以前には、徳之島関係の大きな行事があるとき、夢振が出向いて物産販売等を行っていたことがありますが、事前の情報と会員の支援体制が整えば、改めて検討していいことだと思います。

フラワーについては本誌に岡村委員長が詳述しておられますが、4月の小中高新入生の記念植樹が希望の学校において例年どおり行われたのは、重岡所長、畑山理事など島の夢振会員のお力によるものです。5月4日には四本博文会員(古河市議、なごみの里理事長)が実行委員長として実施された「泉重千代翁33回忌祭」が阿三の翁生家広場で盛大に挙行されましたが、翁の銅像周辺に桜10本を植樹していた夢振も実行委員会に加わって、多数の会員が法要と交流会に参加しました。なお、33回忌祭に際し名古屋在住の近藤成章氏(近藤産興株式会社社長)が「家族が明かす・・・泉重千代長寿の秘訣」(1984年)の復刻版作成に多額の寄付をされ、式典の場で御子息から徳之島3町教育長に寄贈されました。泉重千代翁が語った長寿の心得長寿十訓の始め三訓を紹介すると、「一 万事くよくよしないがよい、二 腹八分めか七分がよい、三 酒は適量ゆっくりと」。10月には、町田専務理事が本誌で詳しく報告しておられる通り、徳之島町制60周年の記念式典に合わせ、天城町岡前の西郷

公園で桜の植樹をしました。これで徳之島の西郷隆盛と深い縁のある地には、2年前の井ノ川、そして今回の岡前と合計200本の緋寒桜を植えることが出来ました。夢振がこうした協力をする事が出来るのも、井ノ川では教育界で無二の信望を集めておられる横濱先生、岡前では永井区長が、植樹後の苗の定着、成長のため地域の方々と協働しておられるからです。徳之島町制60周年式典の際、町政への功労者として永年「花いっぱい運動」に取り組んでこられた個人4人と2つの団体に感謝状が贈呈されました。花いっぱいとは、美しい生活、地域環境そのもので、多くの個人とコミュニティが倦まず取り組んで初めて生まれるものだと感じました。夢振の初代フラワー委員長は井ノ川出身の村岡清男さんですが、夢振設立の前からフラワーアイランドの実現を夢見、支援してこられました。

10月の夢振帰島の際には「フラワーサミット」を開催し、鹿児島県、各町を含む行政、観光連盟、花いっぱい運動の代表の方などとともに、活発かつ多面的な議論を行いました(その記録は本誌にあり。)。その場で大久保伊仙町長は、「世界自然遺産への登録は今後の徳之島にとって決定的な意義を有することになるでしょう。」と評価されました。5月4日の朝徳之島空港で、私はユネスコが日本の登録申請を否定したという環境大臣発言を知りました。奄美・琉球という2県をまたがる対象地域を国立公園に追加指定した国にはもとより、11の協議会を設けて対策を検討してきた徳之島3町にも衝撃的なことだったでしょう。しかし、ユネスコのコメントは世界自然遺産への取り組み姿勢を考え直す良い機会を与えてくれました。徳之島、そして徳之島が真ん中にある琉球弧は大変大きな世界です。将来は、島の観光連盟が期待するように、台湾から屋久島、種子島まで続く海の観光ネットになるかも知れません。島での検討をよくフォローし、夢振も新たな展開を考えましょう。航空会社の設立を断念された井藤さんは、奄美観光のための一般社団法人「結いの島」を設立され、今回我々は大変お世話になりました。小林正人会員の(株)奄美海援隊同様、大きな発展を祈りたいものです。

10月31日から11月2日まで、東京と鹿児島で初めての「鹿児島県人世界大会」が開催されました。海外からの270名の移民1世から3世、海外定住者が帰郷され、そのうち約30名が奄美をルーツとする方々でした。ブラジルからは宇検村出身の方が18人もそろって帰り、湯湾で大変な歓迎会がありました。徳之島の出身者は南カリフォルニアから5名の方が戻りましたが、奄美市長、徳之島町長なども参加したゴルフ会が開催されたそうです。海外の鹿児島県縁の方々とは、今後「かごしま KIZUNA ネットワーク」が構築されることになっていますので、夢振も海外の徳之島の仲間との交流を考えていいかもしれません。夢振興会議の憲章のまためには「徳之島の「夢」を世界の夢にしよう」とあります。平成24年10月、夢振は創立10周年の故郷の集いとして、伊仙町に新設されたほーらい館で「花と結のシンポジウム・懇親会」を主催しました。世界自然遺産登録が実現したとき、徳之島、奄美、鹿児島、そして沖縄やんばるは何をすべきか、平成に次ぐ新しい御代を迎えてしっかり議論ができるよう準備したいと思います。そのため一番大切なことは、次代を担うリーダー達です。夢振としても若い会員確保のため皆さん努力しましょう。

<p>NPO 法人徳之島「夢」振興会議 理事長</p> <p>(財) 鹿児島奨学会理事</p> <p>(財) 奄美奨学会理事</p> <p>NPOふくしま再生の会監事</p> <p><b>横 田 捷 宏</b></p> <p>(伊仙町出身)</p> <p>Mail : <a href="mailto:k-yokota@y8.dion.ne.jp">k-yokota@y8.dion.ne.jp</a></p>	<p>NPO 法人徳之島「夢」振興会議 相談役</p> <p>関東徳之島町会顧問 関東神校会顧問</p> <p><b>村 岡 清 男</b></p> <p>(井之川出身 86才)</p> <p>「夢」振設立企画委員の一人として尽力、故郷徳之島に南国のきれいな花をいっぱい植えて、わきゃ島の美ら島づくりプロジェクトを提唱、島の花いっぱい運動は全国各地の島関係者にも呼びかけてこれからもずっと続けましょう！</p> <p>〒195-0061 東京都町田市鶴川3-4 ココファンまちだ鶴川212号室 TEL/FAX: 042-734-2938 携帯電話 090-3406-5566 Mail:<a href="mailto:s822@Pony.ocn.ne.jp">s822@Pony.ocn.ne.jp</a></p>
---	---

# 『 感謝のご挨拶 』

NPO法人徳之島「夢」振興会議 理事  
フラワー 委員長 岡村 隆文

本年度も多くの会員、賛同者の皆様のご協力を頂いております。心から感謝申し上げます。

例年通り4月には、重岡所長、田川副理事長、畑山フラワー委員、重村会員がそれぞれの町の小・中・高等学校へ寒緋桜を配布し、記念植樹をしてもらいました。徳之島子宝空港は田川副理事長の下、永井岡前区長、福山会員、亀徳港は重岡所長が通年お世話をしています。

また、5集落への美化活動に対する協力金も3万円×5も実施済みであります。10月には岡前集落で“大植樹祭”を実施致しました。永井区長のご尽力により“西郷公園”周辺に100本の寒緋桜を集落の皆様と一緒に植樹、その後公民館に移動、昼食を共にしながら親睦を深めました。

徳之島町制施行60周年記念のビッグイベントにも参加して、高岡町長を始めとする関係各位の熱意の賜でありましょう、大盛会には感心致しました。

10月21日16:20~亀津の「ホテルニューにしだ」の会場で「夢」振会員と徳之島の行政他在住者との懇談交流会では沢山のご提言、ご意見を賜りました。フラワーに関するものを列挙致します。

松永県用地管理係長：① 県道への植栽は相談して欲しい。

② 補助金も考えている。

下久志はつらつ会 畑山会長：① 県道200mに植栽。

② 管理をしっかりして地元貢献している。

母間の赤崎さん：① まずは地域から。

② 奉仕者、ボランティアを募り美化活動推進中。

県庁職員川畑さん：① 物・金より担い手を育てる事が重要である。

大久保伊仙町長：① 伝統文化を大切に、継承・発展させていくことの重要性。

② 自然と文化を切り離さず、複合遺産として捉えたい。

その他、世界自然遺産について（奄美の黒うさぎ・環境保全・外来種）、観光・物産、闘牛、出生率、農業（長命草・コーヒー・お茶）等々ご意見、ご提言を頂きました。

『「夢」振の果たしてきた役割は大きい』と云うお話も頂きました。

「夢」振は島のサポーターとして役立つことでしたら出来るだけの事をしたいと考えております。

上記した事等を踏まえて、これからの活動の指針にしたいと思っております。懇親交流会に参加された方々の中にはご意見、ご提言を用意したにも関わらず、発言の機会が無く懐に仕舞われて、お帰りになられたとのお話も聞いております。本紙面をお借りして、私の気の利かない、不徳の致す所をお詫び申し上げたいと思っております。本当にすみませんでした。

これからも、どのような些細な事でも採り入れるべきは採り入れて次のステップにしたいと思っております。

終わりに、この会報誌を手にする皆様のご多幸、ご健勝を心より祈念申し上げます。そして、益々のご支援、ご協力を切にお願いしてご挨拶と致します。

フラワー会員になって

めざそう “徳之島に100万本の花を”

有限会社 ニッコー通商

代表取締役 岡村 隆文 (伊仙町 阿権出身)

〒108-0071 東京都港区白金台2-27-7-601

【故郷を花一杯にするのは私たちです。

帰郷時に母校等に記念植樹をして、明治時代は学問日本一の徳之島、現在は長寿、子宝日本一の徳之島、そして、これからは「花の徳之島」日本一を私たちの手で作りましょう】

徳之島町は、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」として、2020年に開催される世界遺産委員会での世界自然遺産登録を目指しており、保全と活用に向けて様々な取組みが推進されています。

ソフト面では、地元団体と連携したアメリカハマグルマをはじめとする侵略的外来種の駆除事業や遺産候補地4地域の児童らの主体性を育む次世代交流人材育成事業を実施することで、豊かな自然環境を維持するとともに、外部の先進的事例を学ぶことで地域資源の発掘を図っております。

ハード面では、野生動物と人間が暮らす中間域でのロードキル防止を目的とした生態系回廊の設置、希少な野生動植物の生態を学ぶことが可能なビジターセンターの設置に向けて関係機関への要望を行っております。

このほか、公共事業での自然環境への影響を最小限に抑えることを目的とした公共事業作業指針の策定、全国から寄せられましたふるさと納税を活用した環境教育の実施等、世界自然遺産登録の早期実現に向けて施策が展開されています。

祝「夢」振興会様の益々のご発展をお祈りいたします

一般社団法人 徳之島

顧問	小林 正昭	理事	吉岡 早苗	理事	稲田 一正
顧問	島田 勉	理事	松元 徳光	理事	熊山 幸子
顧問	國元 正俊	理事	里井 達吉	監事	作 徳久
理事長	小林 昭弘	理事	豊島 啓市郎	社員	遠田 悦子
副理事長	森 徳栄	理事	成山 秀樹	社員	松田 秀人
副理事長	西元 寿賀男	理事	中野 壽郎	社員	仁礼 勝二

店舗・事務局：〒661-0976 尼崎市潮江1-20-21 フレッシュコア内

TEL:06-6499-7786 FAX:06-6499-7724

※ 平成23年2月に設立

ふるさと徳之島を大切に思い、その発展に役立ちたいと活動しております。

第7回徳之島祭りにご支援・ご協力いただきありがとうございました。

全国のご当地サイダー製造

南は、沖縄の人参サイダー・北は、青森のにんにくコーラ  
徳之島から全国制覇をめざします。

徳之島・タートルベイ醸造

代表 徳田 公一

〒891-7101 大島郡徳之島町亀津830

TEL : 0997-83-1410 携帯 : 080-5196-9291

ユタカ不動産

誠実・公正をモットーに奉仕する

豊 竹光・静子 (旧姓 保井)

〒894-0016 奄美市名瀬古田長3-6

TEL : 0997-52-7998

# 特定非営利活動法人徳之島「夢」振興会議

2017年度 臨時総会 議事録

記録者 大吉廣子

- 1.開会 14:00～15:45 . . . . . 司会:町田 憲孝 専務理事兼事務局長
2. 開会宣言 . . . . . 専務理事 町田憲孝
3. 理事長挨拶 及び来賓紹介 . . . . . 横田捷宏
  - ①、泉重千代翁の33回忌記念に桜の木30本を徳之島「夢」振興会より寄贈
  - ②、エア奄美株式会社を設立した株式会社大表取締役伊藤守仁氏への感謝と尊敬を表す。
  - ③、奄美農畜水産事業組合の代表取締役平山典彦氏のグループによる「よい種で食べ物を作る」取り組みについて。
  - ④徳田昌則前理事長の叙勲について
  - ⑤次回の事業の報告と発表
4. 来賓ご挨拶：塩田康一氏（経済産業省 大臣官房審議官：忘年会時へ変更 第三部でご挨拶）
5. 会員出席者（順不動 敬称略）:徳田昌則,横田捷宏、雪山渥美、津田和紀、松田健一、岡村隆文、川畑進、井上脩士、井上洋子、幸田晋典、宮原たつ子、木村浩子、大吉廣子、松元啓一郎、福井巖、井藤守仁、小林正人、栄信宏、平山徳廣、平山典彦、四本博文、島重利、町田憲孝・・・以上正会員  
井藤昌吾氏、利成彦氏、内村 真希子氏、村田みゆき氏:以上非会員（エア奄美(株)関係者）  
和泉昌大氏、池田亮氏、坂田奈菜子氏、ジョン・ムーア氏:以上非会員（奄美農畜水産事業組合関係者）

以上31名

## 第一部：臨時総会及び四本博文氏講演

1. 2017年度前半活動報告 . . . . . 専務理事 町田憲孝
  - (1) 2017・5・3 第1回理事会開催（於：五反田ユイワークサポート事務所）概要報告  
・詳細については同封の議事録参照願います。
  - (2) 2017・6・11「夢」振 2017年度通常総会開催（於：ニューオータニ イン 東京）  
・通常総会の詳細については「夢」振会報誌16号で総会議事録として掲載しております。
  - (3) 2017・10月「夢」振会報誌16号発行（賛助広告1.5万円枠×5件・1万円枠×23件・5千円枠×6件）
    - ① 600部発行11月関係部門へ発送済  
関係部門：「夢」振全会員・「会報誌16号寄稿者及び賛助広告ご協力者」・環境省徳之島出先機関・  
県事務所・3町の（役場・議員・教育委員会・教育長・図書館・公民館・老人クラブ・）徳之島関連マスコミ・警察  
署・フラワー活動協力者・虹の会・「夢」振過去の講演会講師・他：
  - (4) 2017・11・19 第2回理事会開催（於：五反田ユイワークサポート事務所）  
・詳細については同封の議事録参照願います。
2. 2017年度前半フラワー活動報告 . . . . . フラワー委員長 岡村隆文
  - \*10月の台風で徳之島空港の植栽が全滅しましたが天城町農業祭の苗を買い田川先生を中心に植え替えてくださった。
  - \*今後は環境美化に積極的な学校に協力したい
  - \*花を配布するときは管理責任者を決めて配布します。
  - \*皆さんにふるさと徳之島のフラワー基金に支援金のご協力をお願いします。
3. 2017年度前半物産販売関連報告 . . . . . 物産販売担当理事 宮原たつ子
  - \*タンカンは10月の2回の台風で期待できない
  - \*マンゴは少ないが期間が長く出荷出来た。
  - \*お酒は今年は少量の売上
4. 四本博文氏 講演 . . . 泉重千代翁33回忌関連の取組状況について
  - \*地元で平成30年5月4日 3時より法要を行います
5. 平山典彦氏グループによる徳之島農業改革の取組への抱負について
  - \*土壌を改良してよい種でよい気候で風土でよい食べ物を作ろうと下記人達が努力する
  - \*奄美農畜水産事業組合・株式会社「農業生産法人」の代表取締役平山典彦氏
  - \*奄美農畜水産事業組合・株式会社「農業生産法人」の代表取締役副社長和泉雅大氏
  - \*森口農園 理学博士 池田 亮 氏（生物多様性・複雑系科学研究者・各人を肯定する・  
緑を大切にする・全体を総合的に観る）
  - \*SPIRALS CONTENTS JOHN MOORE 氏 \*SPIRALS PLANNER/PRODUCER/EDITOR 阪田奈菜子氏

第二部：横田捷宏 理事長及び徳田昌則 前理事長 叙勲記念講演

1. 花束贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・宮原たつ子理事及び井上洋子理事
2. 記念日目録贈呈（夫々焼酎ブラック奄美1ケース）・・・・・・・・・・・・・・・・雪山渥美相談役
3. 横田捷宏 理事長講演  
\*今回、天皇から授与された勲章の種類について解説
4. 徳田昌則 前理事長講演  
\*徳田昌則氏本人の今回受賞に至る研究の経歴と抱負を語る。  
\*徳之島に「国立高等専門学校を設立」が長年の夢として語る。

第三部：忘年会及び叙勲受章記念祝賀会・・・・・・・・司会 松元啓一郎（事務局次長）  
16:00～18:30

1. 開会挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・岡村隆文 フラワー委員長
2. お祝いの舞（さんさ時雨）・・・・・・・・木村浩子理事（踊り師匠・名取）
3. 乾杯の音頭・・・・・・・・津田和紀 副理事長
4. 宴会開始
5. 塩田康一氏及び井藤守仁氏特別ご挨拶  
\*塩田康一氏・・天城町北中学校卒の若者の集まりがあり活発な意見交換がありました。  
\*伊藤守仁氏・・エア奄美（株）の飛行機就航に向けて、現在70名のスタッフで運賃を今迄の半額を目指して奮闘、努力しています。又徳之島の産業育成により考えのある方はぜひ企画書を提案してください。それと平成30年3月25日に闘牛大会を企画しています。
6. その他、数名の方が徳之島への提案を口頭で述べられました。
7. 最後締めめの挨拶・・・・・・・・松田健一 理事

以上



さんさ時雨（祝いの舞）  
木村浩子理事（名取・踊り師匠）



井上理事・宮原理事より花束贈呈



雪山相談役より目録贈呈（ブラック奄美1ケース）

《ご寄付》 金5,000円  
NPO 法人徳之島「夢」振興会議 理事  
**市村 康**  
〒552-0016 大阪市港区三先2-20-2-801  
携帯：080-5494-3997



特定非営利活動法人徳之島「夢」振興会議

2018年度(12回)通常総会議事録

平成30年6月3日(日) 於:ニューオオタニイン東京

TEL 03-3779-9111 (代表)

議事録記録者 (松元 啓一郎)

1. 開会(14:00) . . . . . 司会: 町田 憲孝 専務理事
2. 出席者の確認・正会員(99名) 本人出席(30名) 委任状(31名) 計(61名)
3. 理事長挨拶及び来賓紹介 . . . . . 横田 捷宏
4. 来賓: 塩田 康一氏(大臣官房審議官 . . . 懇親会出席)・岡村 勇氏(関東天城会会長)  
 國元正俊氏(一般社団法人徳之島 副理事長)・高田賢一氏(奄美新聞社)・戸常慎司氏(南海日日新聞社)  
 来賓代表ご挨拶: 國元 正俊氏・岡村 勇氏
5. 会員出席者(順不動 敬称略:徳田昌則,横田捷宏,村岡清男,雪山渥美,河島良政,津田和紀,松田健一,市村康,岡村隆文,川俣進,宮原たつ子,井上脩士,井上洋子,幸田晋典,福田毅雄,東勇吉,勝光重,木村浩子,大吉廣子,矢島和義,松元啓一郎,四本博文,関和彦,稲村義雄,井藤守仁,栄信宏,福山博明,平山典彦,福井巖氏,町田憲孝 . . . . . 以上正会員 小坂京子,千葉タズエ . . . . . 賛助会員 吉田治美氏,吉田ミチ子氏,高崎一輝氏,初谷ゆり子氏,新田涉世氏 . . . . . 会員知人 利成彦氏,福留かよ子氏,内村真紀子氏,平直樹氏,井藤昌吾氏,,小澤やよい氏,,倉橋貴美子氏 . . . . . 以上「一般社団法人 結いの島」グループ
6. 議長選出 . . . . . 議長(稲村 義雄)
7. 議事録署名人選出 . . . . . (松元 啓一郎・勝 光重)
8. 議事

第1号議案 平成29年度事業報告

- (1) 一般事業報告(詳細は総会時の配布資料 . . . 概略下記) . . . . . 町田 憲孝 専務理事
  - (イ) 理事会4回開催: ①フラワー活動ヒント探しに「鶴巣花まつり」見学会実施②「夢」振PR用にハッピー10着調達③通常総会関連打合せ④臨時総会関連打合せ⑤2018/11頃故郷での第8回フラワーサミット開催の検討
  - (ロ) 総会2回開催: ①通常総会・特別報告→井藤守仁氏・「おもてなし」→山田淳子氏・映像による徳之島紹介→武蔵野大学大学生5人・徳之島の田植え文化紹介→酒井正子氏・余興→指宿桃子氏②臨時総会・特別報告→徳之島農業改革への取組: 平山典彦グループ/忘年会兼叙勲受章祝賀会→(徳田昌則顧問/横田捷宏理事長の瑞宝章中綬章受章)・お祝いの舞→木村浩子理事(踊り師匠・名取)・花束/目録(ブラック奄美1ケース)贈呈・受賞したお二人のご挨拶
  - (ハ) その他の活動: ①「夢」振会報誌16号発行②「第6回徳之島観光・物産フェア in 東京」出店(故郷特産品販売協力事業)③故郷の希望した32校(小・中・高)へ緋寒桜34本贈呈④泉重千代翁33回忌法要事業に全面協力
- (2) フラワープロジェクト活動報告(詳細は総会時の配布資料 . . . 概略下記) . . . . . 岡村 隆文 フラワー委員長
  - (イ) 故郷5集落(フラワー活動熱心グループ)へ協力金支給
  - (ロ) 故郷の植栽については、管理責任者制度導入により木々は順調に生育
    - (ハ) 井之川「大野原公園」に緋寒桜100本植樹
    - (ニ) 岡前西郷公園周辺に緋寒桜30本植樹
    - (ホ) 希望した32校(小・中・高)へ緋寒桜34本贈呈植樹
    - (ヘ) フラワー基金収入1,087,446円→支出661,308円(大口支出: 集落美化支援金15万円・記念植樹関連222,950円)、2018年度への繰越金426,138円
- (3) 特産品販売報告(詳細は総会時の配布資料 . . . 概略下記) . . . . . 宮原 たつ子 物産販売担当 理事
  - (イ) たんかんは前年度比減 . . . . . 不作の為
  - (ロ) マンゴーは前年度比増
  - (ハ) 焼酎は前年度比増

但し、上記特産品の大半は宮原理事個人の友人・知人が協力、「夢」振会員の絶大な協力をお願いしたい。

第2号議案 平成29年度会計報告及び監査報告

- (1) 平成29年度会計報告(詳細は総会時の配布資料 . . . 概略下記) . . . . . 藤本勝博 理事(代理) 宮原 たつ子 理事
  - (イ) 収入合計3,607,345円(大口収入は物産売上高1,243,541円・会費収入95万円・寄付金含・フラワー寄付金67.7万円・会報誌広告35万円)
  - (ロ) 支出合計3,353,864円(大口は物産仕入費1,166,556円・フラワー活動費661,308円・会報誌印刷送料259,200円・他)
  - (ハ) 2018年度へ繰越金1,363,557円(内2017年度分253,481円)
- (2) 平成29年度監査報告: 上記会計報告は関係書類、帳簿と照合した結果適正で有る事を認めます。2018・5・22 . . . . . 矢島 和義 監事

第3号議案 平成30年度事業計画(案)

- (1) 全体事業計画・フラワープロジェクト活動・物産販売事業: 概ね平成29年度を踏襲を上程 . . . . . 町田 憲孝 専務理事

- (2) 上記平成30年度(案)は満場一致で承認により決定・・・・・・・・町田 憲孝 専務理事  
 第4号議案 平成30年度会計予算(案)・・・・・・・・宮原 たつ子 理事  
 (1) 全体平成30年度会計予算(案):概ね平成29年度を踏襲を上程・・・・・・・・宮原 たつ子 理事  
 (2) 上記平成30年度会計予算(案)は満場一致で承認により決定・・・・・・・・宮原 たつ子 理事  
 第5号議案 役員改選

- (1) 新理事推薦の件:正会員の松元啓一郎氏・畑山育男氏・四本博文氏・関和彦氏を新理事に推薦  
 本件満場一致で新理事承認決定。  
 (2) 松林清雄氏相談役解任:体調不良で「夢」振会員から脱会済・・・・・・・・自然解任  
 (3) 信寛良理事解任:体調不良で「夢」振会員から脱会済・・・・・・・・自然解任  
 (4) 田川忠良副理事長職を解く:本人の強い申し出により正会員として今後は活動  
 (5) 新理事決定後臨時理事会開催し、理事長・副理事長・専務理事等の互選実施。  
 (6) 天城町代表の副理事長は田川忠良副理事長に代わり上岡弘明理事を互選にて副理事長に決定。

第6号議案

その他・・・特になし  
 閉会 (15:50)

第2部 基調講演 (16:00～17:30)

講師:金丸 弘美先生

金丸弘美先生プロフィール:1952年生・佐賀県唐津市出身・食総合プロデューサー・食環境ジャーナリスト・「食からの地域再生」「食育と味覚ワークショップ」「地域デザイン」をテーマに全国の地域活動のコーディネーター・アドバイス事業・執筆活動で著作数十冊また、総務省地域力創造アドバイザー・内閣府官房地域活性化伝道師・小笠原諸島地域開発審議会委員・新潟経営大学特命教授・明治大学農学部食料環境政策学科兼任講師・他(奥様が伊仙町出身・伊仙町に7年在住・徳之島に関する著作「ゆらしい島のスローライフ」2004年発行)

演題:日本は地方から元気になる!!(田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則)→実体験、データを基に解説(正に目から鱗であった)

第3部 懇親会(17:30～19:30)・・・・・・・・司会(町田 憲孝)

- (1) 顧問挨拶・・・・・・・・顧問(徳田 昌則)  
 (2) ご招待者のご紹介とご挨拶・・・・・・・・塩田 康一氏(大臣官房審議官)  
 (3) 開会挨拶及び乾杯の音頭・・・・・・・・相談役(雪山 渥美)  
 (4) 余興1 故郷・徳之島小唄合唱・・・・・・・・ハーモニカ演奏(村岡清男相談役)・指揮(松田 健一)  
 (5) 余興2:小坂京子さんによるマジックショー  
 (6) 余興3:久永さとみさんの「花の徳之島」「徳之島讃歌」他数曲熱唱  
 (7) 締め挨拶・・・・・・・・(津田 和紀 副理事長)

<p>社団法人 鴻巣市医師会立          鴻巣准看護学校</p> <p>校長 <b>井上 脩士</b></p> <p>学校 埼玉県鴻巣市中央2番2号          〒365-0032 TEL:048-543-1812          FAX:048-543-1810          ホームページ:<a href="http://www.sakitama.or.jp/kfma/index.html">http://www.sakitama.or.jp/kfma/index.html</a></p>	<p>内科・小児科・胃腸科          北鴻巣クリニック</p> <p>院長 <b>井上 脩士</b></p> <p>〒365-0073 埼玉県鴻巣市八幡田 531          TEL:048-596-1423          FAX:048-596-6139          Email:<a href="mailto:yuclinic@kjd.biglobe.ne.jp">yuclinic@kjd.biglobe.ne.jp</a></p>
--	---



# NPO 法人徳之島「夢」振興会議会員と徳之島在住者の交流会 議事録

記録者 宮原たつ子・幸田 晋典

1. 日時・場所：2018/10/21 16:20～ 18:00 於：ホテル ニューにしだ（徳之島町亀津）
2. 出席者：横田捷宏、雪山渥美、河島良政、津田和紀、岡村隆文、宮原たつ子、幸田晋典、井上洋子、井藤守仁、鶴野忠光、福山弘明、町田憲孝……以上「夢」振 関東会員  
重岡堯夫、保井和夫、畑山育男、重村宏明、田川忠良、平美香子、利元一郎、石井宏延、重岡四男、川柳邦夫、町田進、貴島克仁、赤塚富士夫……以上「夢」振 故郷会員  
川畑大吾・鹿児島会員、松林純子（非会員：関東徳洲会会長）、井藤昌吾、平直樹……以上一般社団法人 結いの島グループ  
故郷側：松永忍（県徳之島事務所 主幹・用地管理係長）、大久保明（伊仙町長）、向井久貴（徳之島町役場企画課長）、幸田智博（徳之島町役場地域営業課長）  
遠藤智（徳之島町役場地域営業課主幹）  
重田勝也（徳之島観光連盟会長）、松林清博（徳之島ライオンズクラブ会長）、和田祐一（会員知人）
3. 司会・議事進行・開会宣言……「夢」振 専務理事 町田憲孝
4. 主催者側代表挨拶……「夢」振 理事長 横田捷宏

- ☆ 本日ご出席の方々にお礼を述べ、今後徳之島でのフラワー管理等について、皆様方のお知恵を拝借し、意見交換出来ればと思っている。今回10名以上で来島。
- ☆ 昨日の徳之島町制60周年記念式典には、国会議員、知事、県議会議員など、多数の参加に感謝し、また、ご多忙中、台風被害の視察も兼ねると云うお話でした。
- ☆ 高岡町長は、引続き国会議員等の接待も有、代わりに向井企画課長や県の松永主幹にご出席して頂いており、県や町のお話を聞かせて頂いたらと思っています。
- ☆ 高岡町長から県の支援を得て委託を受けながら、県道の植栽をどう進めていくかの議論をしていて、「夢」振として、少しでも手伝える事が有ったら、お願いしますと云うお話が有、事務方の中心になっている向井課長、県の松永主幹もお見えになっているので、私共に対するご指導も頂ければと思います。こちらの問題点は、お手元に紙の資料をお配りしていますが、今日は県、町のお考えを頂きたいと思っています。

5. 司会・議事進行の挨拶……「夢」振 専務理事 町田憲孝  
本日の司会進行をさせていただきます「夢」振専務理事で神奈川県在住井之川出身の町田憲孝と申します。「夢」振3次の3つの柱を掲げて2002年に設立しました。
  - ☆ 一つ目は2002年から10年掛けて100万本の花木を植えてフラワーアイランドにする・・・フラワー活動を10数年続けて来て、認知されつつあります。今回は岡前の西郷公園に緋寒桜100本寄贈して植樹祭を、1昨年は井之川の大野原公園に緋寒桜100本植樹し、台風の影響はどうかと現地へ行って見たが、新芽が出て来てはほぼ9割以上は根付いておりました。
  - ☆ 二つ目の柱は徳之島の物産観光振興を支援する・・・2013年に3町連合の徳洲会青年部より徳之島物産展をやりたいと申し出が有、経費などの問題点は有りましたが、「夢」振の後押しにより、毎年2月に代々木公園で開催し、今年で6回目を迎え、「夢」振は主に黒糖焼酎販売、毎年特設の50店舗が売切れる盛況です。
  - ☆ 三つ目は、東京に徳之島会館を作って、故郷の方々、特に学生の宿泊等側面からの支援・・・相当な経費要の為、将来の実現目指し続行中。

県事務所 松永主幹：所長が多忙で代理で出席。植栽等に関する用地管理を担当しているので皆さんの意見を聞いて、実現に向けて検討して行きたい。

徳之島町役場 向井企画課長：昨日の徳之島町制60周年記念行事への参加と成功裡に終わったお礼を述べられ、次に毎年2月の東京での物産展についてのお話、最後は沖縄の基地の問題も有りますが、世界自然遺産への2020年登録を目指し再度取組む姿勢を話された。徳之島の道端には開花（文化庁の語紹介）。

徳之島観光連盟 重田会長：「夢」振の活動や取組についてお礼を述べ、今後の観光連盟としての取組みについては、世界自然遺産登録が延期になり、新たな視点で取り組む。7月から飛行機が沖縄・沖永良部・徳之島・奄美大島に就航しており、沖縄とも連携して行く必要が有、クルーズ船の就航で海外からのお客様も有、沖縄は中国の来訪者も多く、台湾・沖縄・奄美ルートにして、ヨーロッパ方式の富裕層をターゲットにしていきたい。徳之島は飛行機運賃が高く、LCCが就航すれば、解決出来ますが、航空運賃が課題である。沖永良部は花作りが盛んで、観光の目玉にしている。花は人を引付けるので、観光資源になる為、徳之島も花に注目し、「夢」振と共に取組めたらいいと思っています。与論・沖永良部・徳之島を観光地として売り出して行けるように、今、模索中である。

重岡「夢」振副理事長：世界自然遺産登録に向けて、鹿児島大学特任教授 星野一昭氏のIUCNの勧告を受けての世界自然遺産講演会が今年の5月13日徳之島町で有りました。その中で私の印象に残った事を述べさせていただきます

- ① 星野氏は「確実な遺産登録への道を示してくれた」と評価し、遺産登録に向け、自然環境の保全に住民が主体的にかかわる事。
- ② 住民の役割として、遺産価値が評価された島の自然を知る一人ひとりが出来る事に取り組む。「徳之島の未来を決めるのは島民。自然環境の保全を通して遺産登録に主体的に関わり、皆さんの努力で遺産登録を勝ち取ろう。」 ※IUCN（国際自然保護連合）

向井企画課長：世界自然遺産登録に向けて→県の方からの依頼で、徳之島町の道路環境等につきましては、町が取組んでいて、花いっぱい運動は管理が大変で集落の高齢者等のボランティアにお願いせざるを得ない。環境保全に役立つ事について、「夢」振の提案を頂きたい。花は植えるより、草の処理が大変。外来種の除去には資金がかかるので、完全な形にするに至っていない。県に予算が無く、町に依頼して来たので、25万円を折半にして、5集落に5万円ずつ配付した。徳之島町では道路環境整備にホワイトボードで表示（5年生が絵を描いている）。モクマオウは防風林として有効活用しても良いのでは。在外の宿持つ多。

伊仙町 大久保町長：世界自然遺産登録に向けて→「夢」振が取組んで来た「花いっぱい運動」が重要になって来ている。地方が活性化して行くには、新しい文化の価値を共有して行く事が大事で有る。徳之島の「虹の会」の環境保全の功績も大きい。当部→母間に通じる農道？で1晩で30匹の黒ウサギを見る事が出来た。自然遺産は島の人達が守って来た自然が残っている。「夢」振の活動に対して、島の人達の受け入れる度量が欠けていたように思う。島の出生率が高いのは、「闘牛文化」によるものである。

横田「夢」振理事長：この事業は歴史、文化を守りながら、台湾・沖縄・奄美の交流を含めて広い範囲で考えていく必要が有る。予算については、小さな寄付を集めてやっているところ。奄振の延長の中で、その予算の範囲内で自然遺産の対策を進めていくと良いが、「夢」振としては、東京で検討し、3町の支援が出来ればと思っています。

松林純子 関東徳州会会長：今回、初めて「夢」振のこの様な会に参加させて頂きました。関東徳州会として、徳之島観光物産フェアを代々木公園で開催し、3町のお世話になっており、まだまだ微力ですが、この場を借りてお礼を申し上げます。2019年2月にも物産展を実施しますのでご協力よろしくお願い致します。

畑山「夢」振理事：8年前に島に帰って来て、すぐに老人会の会長になり、名前を「はつらつ会」に変更し、地元貢献の意味で環境美化に努めております。5年前に「夢」振の会員になり、フラワー委員をしております。平成18年「ふるさとサポート事業」を展開し、県道沿い200mを管理、下久志分校に桜を植樹して管理、町・県と連携しながら活動している。徳高の伊山農園の花苗を活用したり、徳之島をより一層美しい島にしていきたいと思っております。

松永県事務所主幹：県としては、ごみ袋等の細かい補助は可能であります。植樹について相談してもらえれば、出来る範囲で応じて行きたい。

赤崎「夢」振正会員（池間で数十年間フラワー活動牽引）：「夢」振の支援に対するお礼を述べる。「ふるさとサポート事業」には最初から関わっています。島に在住して60年になるので、徳之島に恩返しをする思いでやっている。地域作りに高齢者クラブで取組んでいます。県道沿いをきれいにすることが観光にも大事で地域の活性化にもつながる。高齢者の生きがいにもなる。そして、島を思う心を持って取り組む事が大事。外来種対策が大きな課題。

川畑大吾「夢」振賛助会員：4年前に東京（環境省官僚）から鹿児島島へ移転して県の職員となる。徳之島に近くなり、年に数回帰って来ている。東京にいる時に「夢」振の会員となり、フラワー活動や物産の事で、勉強させてもらった。フラワー活動について、現場の問題点について聞いて、どう実践して行くかが大事ですが、若い人たちに担い手になってもらうと良いと思います。

井藤昌吾氏（一般社団法人 結いの島 職員）：今年が5回目帰って来た。「結いの島」事業を今後、どのように進めていくか、除草剤を使わない有機農業を進めて行きたいと考えており、雑草も肥料に変えて行けたら良い。機会を見て、徳之島に永住し、お手伝いをして行きたいと考えております。

向井企画課長：ふるさと納税今年も多く集まって来ている。感謝。現在埋外猫対応考慮中。

大久保 伊仙町長：今年お過去最大級の台風により、被害が大きい。30年前から手掛けて来た徳之島コーヒーが台風被害に強い事が分かった。二地域同居で地域共生社会を！地方創生シンポジウムで発表。地方に戻り、健康長寿の第二の人生を過ごせる地域づくり。IT企業の進出、通勤のない、交流人口を増やし、新しい時代を切り開いていく。台風被害に強いコーヒー・長命草・しまアザミ等に今後の活路として可能性が大きい。

横田「夢」振理事長（最後の締め挨拶）：大変貴重なご意見、ご提言、ありがとうございます。大久保町長、大変お忙しい中、ありがとうございます。東京で向井さん松永さん、重田さん等、ご意見を整理して観光連盟・虹の会と一緒に、しかるべき時期に、世界自然遺産への取組状況、奄振の延長と議論の状況を踏まえて、改めて花、植栽、物産観光も含めたサミットのようなものを今後の取組について考えて見たいと思います。

<p>冷暖房設備・給排水衛生・空気調和工事</p> <p>各設備施工・各保守サービス・電気</p> <p><b>東菱工業株式会社</b></p> <p>代表取締役 経営管理者 <b>藤本 勝博</b></p> <p>取締役 専任技術者 <b>藤本 修磨</b></p> <p>〒154-0011 本店：東京都世田谷区上馬 1-10-17 TEL：03-3424-5321（代表）</p>	<p>現 NPO法人徳之島「夢」振興会議理事</p> <p>現 神奈川奄美会副会長</p> <p>元 鹿児島県小中教員（昭31年～47年）16年間</p> <p>元 神奈川県小教員（昭47年～平成5年教頭職4年）21年間</p> <p>元 神奈川県寒川町議会議員（3期・副議長）</p> <p><b>松田 健一</b>（徳之島町徳和瀬出身）</p> <p>〒253-0103 神奈川県高座郡寒川町小谷 3-2-46 TEL/FAX: 0467-75-5432</p> <p>Email: <a href="mailto:ken-matsuda@kenichi-matsuda.com">ken-matsuda@kenichi-matsuda.com</a></p>
---	--

## 徳之島「夢」振興会議の理事就任挨拶～『ショートリリーフ→完投型を目指して』～

NPO法人徳之島「夢」振興会議 理事

松元 啓一郎（埼玉県 在住 天城町松原出身）

2018年度通常総会に於いて承認され、新理事及び事務局長に就任した松元です。

前任の町田事務局長が専務理事も兼任されており過重な負担を少しでも軽減すべく事務局長を引き受けた次第です。

諸般の事情によりまだ数年は現役バリバリで働かねばならず、いずれ完投型のピッチャーを目指す所存では有りますが、当面はショートリリーフしか出来ず、心苦しい思いです。

ここ数年「徳之島『夢』振興会議の活動を俯瞰して来ました。理事長はじめ愛郷心の強い名操縦士が運行している飛行機のエンジンの役目を事務局が担っているように思います。就任後は特にこの事を意識して事務局長の重責が果たせるか憶する気持ちが有ります。将来的には事務局の人員確保を図る予定でありますが、当面は町田専務理事、宮原理事の協力も得て事務局を回していかざるを得ないと考えます。御二方の協力と他の理事のご協力を合わせてお願い致します。

### 松元建設株式会社

Mnthly, Weekly Rent For Foreigners & Japanese

代表 松元啓一郎 一級建築士・宅地建物取引士

〒351-0035 埼玉県朝霞市朝志ヶ丘 4-2-16

Tel:048-475-2549 Cell:080-3125-3384 Fax:048-475-2133

E-mail: wapart8@gmail.com

一緒に「夢」を見ませんか。我が産土(うぶすな)、徳之島の「夢」を。クロトン、アダン、ハイビスカス等でまばゆい亜熱帯に染める「夢」です。花卉(かき)を100万本植えます。

あなたもそんな島なら行ってみたいはず。それが徳之島「夢」振興会議の心です。徳之島は「度感(とく)島」として「続日本紀」に西暦698年に登場します。爾来(じらい)、1300年以上も連綿と命を紡いで来た我が祖先に胸を張り、次の1000年につなぐ為の歴史の伸介役として「夢」振の活動を支えて下さい。

あなたの希望に「花の徳之島」を、記憶に「夢」振の心を刻んで下さい。

もう一つ「夢」振の大きな柱は徳之島の農家・産業を育てる事業です。

黒糖焼酎・たんかん・マンゴー等取扱っております。ご贈答、自家用に是非徳之島産を！

がん予防の実証とがん撲滅の国民運動を！

NPO法人「バック  
抜苦ねっと」

副理事長 徳田 昌則

〒989-3212 仙台市青葉区芋沢字権現森山 82-14

URL <http://baknet.jp>

TEL: 0120-898-417

画像診断では見えない **微細がんの検出**と**免疫細胞B A K療法**の組み合わせで、

「がん」を発症させないという**がん撲滅**の「夢」実現に取り組んでいます。

★登記手続代理(相続・売買・会社設立等)★簡易裁判所調停代理★成年後見★遺言執行★財産管理業務★債務整理

## 司法書士 津田和紀事務所

徳之島町山出身 大島実高電気42年卒

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-25-15 IBビル2F(池袋西口・東京芸術劇場西側)

NPO 法人徳之島「夢」振興会議事務局

TEL:03-5953-5621

FAX:03-5953-5622

E-mail: [tsudakz@tsuda-kz.com](mailto:tsudakz@tsuda-kz.com) HP:<http://www.tsuda-kz.com/>

## 徳之島「夢」振興会議の理事就任挨拶～『決意を新たに』～

NPO法人徳之島「夢」振興会議 理事  
畑山 育男（徳之島町下久志 在住）

私は、東京において、『徳之島「夢」振興会議』の前身時代からその設立に関わって来ましたが、途中で仕事にかまけて縁遠くなっていました。ところが、縁は異なるもの味なもので、東京における約43年の生活に終止符を打って帰郷した直後から、高齢者クラブの仕事を通じて花いっぱい運動に関わることとなりました。

これは、これまで大変お世話になった「夢」振の村岡清男相談役、小学生時代の恩師でもあります松田健一理事、更には「夢」振の徳之島事務所長で徳之島高齢者クラブ連合会の会長でもあります重岡堯夫副理事長やフラワー委員長の岡村隆文理事のお引き立てによるところが大です。

お陰で、本年6月の定期総会では理事という大役を仰せつかり、恐縮しているところです。

また、本年10月に挙行された「徳之島町制60周年記念式典」においては、会長を務める「下久志はつらつ会」（高齢者クラブ）が、環境美化部門の花いっぱい運動の功労により感謝状を賜りました。

これらは、「夢」振やはつらつ会会員のご支援・ご協力の賜物であり、深く感謝するとともに、島の環境美化活動に決意を新たにしているところです。

感謝状は、末尾写真1のとおりです。

はつらつ会及び私が現在推進している主な活動として、

◇ その一つは、鹿児島県から委託を受けている「ふるさとの道サポート推進事業」です。

これは、鹿児島県から集落の県道沿いの一部区間の整備を委託され、花壇としている活動です。

花壇内には、四季折々にきれいな花が咲くように、いろいろな花木を植え付け、手入れをしております。

現在植えている花木は、「夢」振から提供を受けた緋寒桜やハイビスカス、蘇鉄、クロトン、ハマユウ、カンナ、都わすれ、ガザニア、キスゲ、マリーゴールド、サルビア、ペチュニア、アマリリス、アマクリナム、グラジオラス、日日草、菊、千日紅、ケイトウ、ハナトラノオ等多種にわたっております。花壇の整備状況は、末尾2, 3, 4のとおりです。

◇ その二つは、徳之島町の提唱する「奉仕の日」（第3日曜日）の活動です。

これは、集落全体として推進する活動ですが、大半ははつらつ会の会員です。県道沿いや集落内道路、海岸の空き缶・ペットボトル等のゴミ拾い、下久志分校校庭の除草等です。

◇ その三つは、「夢」振のフラワー委員としての活動です。

各学校に提供する緋寒桜などの希望調査や配付、一部植え付け手伝い、管理状況の把握等を行っております。

また、集落として提供していただいた緋寒桜等は、県道沿いの花壇、下久志分校校庭、町の海浜公園の一角等に植栽し、はつらつ会の協力を得て管理しております。

その他には、社会福祉協議会の地域包括支援事業としての環境美化活動、徳之島高齢者クラブ連合会の環境美化部長として、部員や各集落の高齢者クラブ役員との意見交換、連携等による花いっぱい運動にも心がけております。

次は、環境美化活動に当って留意していることについてです。

☆ その一つは、外来種を除去することです。

徳之島の希少植物を脅かす外来植物を発見駆除していくことです。特定外来種については、栽培、譲渡、譲受運搬等も厳しく規制されておりますが、その他の緊急対策外来種、重点対策外来種についても、

(1) 入れない：悪影響をおよぼすかもしれない外来生物を島内に入れない。

(2) 捨てない：栽培している外来種を野外に捨てない。

(3) 拡げない：すでに野外にある外来種を他地域に拡げない。

を徹底して行くことです。

☆ その二は、潮風・暴風対策に留意することです。

潮風等に強い種について、試行錯誤を繰り返しております。現在のところは、在来種の蘇鉄やハイビスカス、クロトン、宿根・球根植物のガザニアやアマリリス、菊等、落ち種で再生するツルコザクラ等の繁殖にこころがけております。

近い将来には、徳之島町の花木であるユウナやアダン、在来種のフヨウや紋羽の木、草トベラ、改良種のプルメリア等にも挑戦したいと思い、挿し木をしております。

☆ その三は、手間のかからない種を選定することです。

島特有の厳しい気候状況や会員の体力等を考慮し、省力で美化となる種を選定しております。

☆ その四は、島の風情に合致するものであることです。

特に、他の地域を印象付け、連想させる花木はふさわしくないと考えております。

☆ その五は、道路環境、視認性を確保することです。

道路沿いの花壇では、花木が道路にはみ出したり、覆いかぶさったりして視認性を害することが無いようにすることです。繁茂の大きい種は極力避け、剪定を早目に実施することなどです。

☆ その六は、各種事故防止対策を図ることです。

台風等で倒れる樹木や折れて飛散した枝等は早急に後片付けをすること、人通りの多い箇所や子供の遊び場付近にはトゲ類のある物は植えないことです。

次は、今後の課題についてです。

少子高齢化社会になって久しく、島では特にその傾向が強くなると危惧されます。それに併せて課題となっていることは、

★ その一つは会員の減少と後継者がなかなか育たないことです。

はつらつ会の会員は、60人弱で、減少傾向にあります。加入資格は、全国の高齢者クラブと同様、おおむね60歳以上となっております。しかし、現実には70歳以上が大半を占め、最高齢は91歳です。その上、少しながらも体力を必要とする美化活動等への参加者はその半数にも満たない状況です。

★ その二は、地域行事やボランティア活動に対する意識が低下していることです。

先にも述べたように、町提唱の「奉仕の日」の参加者はほとんどが同一人物で数が限られ、低迷しております。

会員の増強や後継者の育成については、喫緊の課題として真剣に取り組んでいかなければならないと思っております。

先ずは、50歳代後半者への声掛けや意見交換を積極的に行うようにする。小・中学校主催のふれあい活動やスポーツ大会等へは積極的に大勢で参加する。

花いっぱい運動やグランドゴルフ大会、海遊び等を数多く実施し、大勢の若者を招致する。

新年会や敬老会、祝賀会等には、集落全員に声掛けをするなど、意思の疎通と相互理解を深めていきたい。

以上、はつらつ会の活動内容と私の新たな決意の一端を申し述べさせていただきました。

これからも「花いっぱい運動」に一層頑張っていきたいと思っております。

写真1

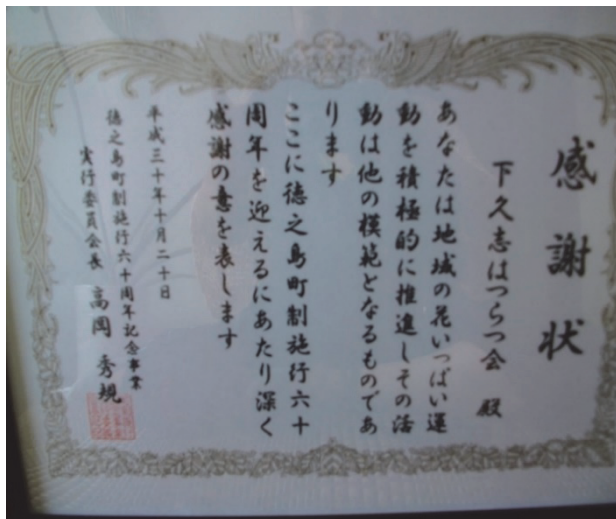


写真2



写真3



写真4



## 徳之島「夢」振興会議の理事就任挨拶～『徳之島が育てた不屈の精神』～

NPO法人徳之島「夢」振興会議 理事  
四本 博文（伊仙町阿三出身 茨城県 在住）

百万本の桜で徳之島を埋め尽くす。

大きな理想の元、NPO 法人徳之島「夢」振興会議が発足して十数年が経過した。物事を成し得るには、一步を踏み出すこと。一本の苗木から全てが始まるのだと思う。長寿の聖地「泉重千代翁」の記念碑周辺に40本の桜を植栽し、管理者を置き、季節になると見事な緋寒桜の色が周囲を美しく染め上げている。古河市から見上げる空は故郷の古里徳之島に連綿と続いている。時には潮騒の音を聞きに小田急線で江ノ島へ向かう。波頭がくずれ、ざわざわ潮の音は記憶にあるあの徳之島のあの音と同じだ。また、懐かしく砂に手を入れると、おふくろの冬の寒さの中にある人肌を感じる。徳之島から旅立ちの時、嫁と子供を連れて18回も引越した。名瀬—鹿児島—東京と地域の中に溶け込み風土や人生観を肌身で感じて来た。その先々には必ず桜が咲いていた。つぼみから桜吹雪が舞う瞬間は見事なものだ。日本には200種類の桜が有ると聞かすが、風土に溶け込んだ桜は、それぞれが名前を変えながら南から北上する。風情ある桜は私どもの福祉施設にも30本くらい植えてあり、桜の木の下でお弁当を広げて、味わいを楽しんでいる。

さて、NPO 法人徳之島「夢」振興会議の役員や関係者の皆様には本年5月4日（みどりの日）に開催されました「泉重千代翁33回忌法要」には多くのご出席で盛上げて頂きました。特に桜の苗木の植栽によって、多くの人達が「花いっぱい運動」を広げようと島百合など300株以上を植え付けるなど大きな引金となりました。実行委員長として、「特別功労賞」と云う形で横田捷宏理事長に表彰状を贈呈し、心からの感謝と未来永劫に向けて語り草になればと思っています。今年の通常総会に於いて、NPO 法人徳之島「夢」振興会議の理事と云う身に余る役職を頂きました。現在、古河市の市議会議員として6期23年、四つの福祉施設の運営と、NPO 法人「生命と環境保全ネットワーク」の理事長として、自分の身の丈で頑張らせて頂いております。思い起こすと島での子供の頃、「きびかさぎ」で雨が降っても畑の畔まで束ねた重い「さとうきびの束」を担いで運びました。寒中の12月にです。年2回収穫の米も頭上からカーッと太陽が襲い掛かる。脱穀でかゆみが体に纏いつく。60年前の耕運機の無い時代の事です。だから徳之島で培った苦労があれば、都会の仕事は楽なものです。耐え忍ぶことを徳之島での生活が育ててくれました。だから、徳之島で生まれたことに感謝しています。

二男一女に恵まれ、医師を目指す者、作業療法士として後を継ぐ者、子供たちは、親の後姿を追っている。出来る範囲で家族5人で「ふるさと納税」にも自主的に参加させています。今回与えられた重責もまた、天命と自覚し、協力をさせていただきます。

### 「夢」振・賛歌 花の徳之島（平成20年発表）

作詞 利 元一郎（轟木出身） 作曲 久永 美智子  
編曲 泉原 孝仁（井之川出身） 振付 木村 浩子（旧姓立花）

1. (男)咲いた咲いたよ ハイビスカスが 空の青さに 人情け 気候温暖 住みやすく 笑顔で語る  
島人しまんちゆに(ソレ) (二人)心癒こころいやす 徳之島 花の花の徳之島 一度は おいで
2. (女)咲いた咲いたよ 蘇鉄そてつの花が 海の紺碧あおさに 夢染めて 気候温暖 住みやすく 島の娘の  
やさしさに(ソレ) (二人)心ひらく 徳之島 花の花の徳之島 一度は おいで
3. (男)咲いた咲いたよ アダンの花が 母の笑顔が 目に浮かぶ 気候温暖 住みやすく 未来あしたを語る  
島人しまんちゆに(ソレ) (二人)心躍こころおどる 徳之島 花の花の徳之島 一度は おいで
4. (女)咲かせましょう 貴方の花も 溢れる思い 郷土愛 気候温暖 住みやすく 踊り明かした  
十五夜に(ソレ) (二人)心酔こころよわせる 徳之島 花の花の徳之島 一度は おいで

（この歌はカラオケ店で歌えます）

※ 茨城県古河市で歴史を積み上げて来た「ひだまりグループ」  
総勢145名で介護職を務める！！

※ 平成30年10月1日から「障害者総合支援法」のグループホーム  
「高野の森」を開設(3ユニットで24名の入所者を迎えました)。



よつ  
もと  
ひろ  
ふみ  
**四本博文**

古河市議会議員(六期目)  
議員報酬を日当制に

- ※「徳友会」顧問
- ※元国会議員秘書(政策・広報担当)
- ※ひだまりグループ(ティサービス福寿苑)顧問
- ※介護施設・障がい施設を設立

### 実績と行動力で全力投球

よつもとひろふみ  
〔四本博文の経歴〕  
・鹿児島県で中学・高校の教師歴任  
・新聞社編集長  
・元国会議員秘書  
・NPO法人理事長  
※スポーツ少年団(男子)  
「古河・嵐」が全国大会で準優勝  
(総合監督)

福祉施設の設立  
・介護タクシー・高齢者住宅  
・サービス付き高齢者向け住宅  
自 宅 〒306-0032  
古河市大手町4番1号  
電話 0280-33-8005

・奄美・徳之島世界自然遺産登録  
・LLC(格安航空)の導入

泉重千代翁法要実行委員会・代表  
【活動拠点】〒891-8321  
鹿児島県大島郡伊仙町阿三1137  
電話 0997-86-2264  
特定非営利活動法人  
『生命と環境保全ネットワーク』  
携 帯 080-5408-2580

相撲甚句「夢」振興会(平成18年発表)

作詞 元力士:一ノ矢(大相撲初の国立大出身力士)

本名 松田哲博(徳和瀬出身)

♪(ハアー ドスコイ ドスコイ)♪ハアーエー(ハアー ドスコイ ドスコイ) 故郷離れて 幾年月ヨ  
(ハアー ドスコイ ドスコイ)ハアー いつも心に 徳之島 青い海山 さとうきびチュッキヤイ節の  
三線(さんしん)の 唄にゆれる 赤花のハイビスカスやガジュマルと 全島一(ぜんとういち)の闘牛で  
熱き心を滾(たぎ)らせて 生きてきました 大和世(やまとうゆ)で せめて少しの恩返しフラワーロードに  
夢託しワイド祭りで 輪を広げ 山古志村まで 夢振興 この度目出度く NPO キバレー 島人(しまんちゆ)  
ヨーホホイ ハアー 夢振興会ヨー(ハアー ドスコイ ドスコイ)♪

徳之島「夢」振興会議の理事就任挨拶～『徳之島との懸け橋の一助に努力』～

NPO法人徳之島「夢」振興会議 理事  
関 和彦（伊仙町出身 東京都在住）


NPO 法人徳之島「夢」振興会の会員となってまだ間もない私ですが、諸先輩の方の後押しもあり、この度、新しい理事として「夢」振活動の仲間入りをさせて頂きました。

私の出身は伊仙町上面縄です。ふるさとを出て、もう半世紀が経ってしまいました。

島へ帰郷するたびに生まれ育った島の過疎化が進む現実を目の当たりにして、生活様式から言葉使いまで東京と変わらない姿に戸惑いを感じながら、郷友会等で「浦島太郎」になった面持ちで、島酒を飲み、島口を使い、島唄を歌いながら、昔話を語り、今後の島の成り行き等について郷友会の皆様と親交を深めている昨今です。

私の「夢」振との出会いは、高校、ふるさと伊仙町の先輩で、現在、「夢」振のフラワー委員長を務めている岡村隆文氏から「島さばくりを一緒にしないか」との誘いを受けたこと、また、平成28年11月に母校徳之島高等学校の新設(伊仙農業高校と統合)創立10周年記念式典に参加した折に、10周年記念に緋寒桜を高校に10本、井之川集落大野原公園に100本、岡前の西郷公園周辺に30本と「夢」振フラワープロジェクトの記念植樹があることを知り、急遽それらの植樹祭に参加させて頂き、花いっぱい運動に携わっている島の人達との交流に感銘したことがはじまりです。

「夢」振の活動内容について、まだしっかりと理解はしていませんが、島の振興について「夢」振の活動を通じて、生まれ育った島との懸け橋の一助となれるよう、微力ながら頑張っていきたいと思っておりますので、今後共更なるご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。

<p>総合結婚式場・大小宴会場</p> <p><b>ホテル ニュー にしだ</b></p> <p>観光に・ビジネスに街中の快適ホテル</p> <p>〒891-7111 徳之島町亀津 7380</p> <p>TEL:0997-83-2400</p> <p>西田不動産(土地建物売買他)</p> <p>ニューにしだ タクシー</p>	<p><u>里帰り・団体旅行のご用命は</u></p> <p>(株)楽園企画 (旧奄美旅行センター)</p> <p>(鹿児島県知事第3-227号)</p> <p>〒891-9301</p> <p>鹿児島県大島郡与論町茶花1 4 1 7-1</p> <p>☎090-1404-2639 (本園金盛)</p> <p>F0997-97-4103</p> 
--	--

<p>うまい!! やすい!! 新鮮!!</p> <p>テーブルが華やぐ・会話がはずむ</p> <p>リピーター率全島一が自慢</p> <p>居酒屋 <b>「風来坊」</b></p> <p>代表 町田 好弘</p> <p>〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津</p> <p>店TEL:0997-82-0084 (旧天梅堂2F)</p> <p>自宅TEL:0997-82-0084</p>	<p>西郷隆盛に学ぶ</p> <p><b>「敬天愛人フオーラム21」</b></p> <p>代表世話人 内 弘志</p> <p>どうなる日本・どうする日本</p> <p>今こそ西郷隆盛に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティア募集: 付1回上野の銅像の周辺を掃除しています</li> </ul> <p>西郷隆盛会館 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-22-6-6F TEL03-5295-2571 FAX03-5295-2573 <a href="http://www.keiten-aijin.com">http://www.keiten-aijin.com</a> E-mail:uchi@giftbank.co.jp</p>
---	--



2018/10/20の徳之島町制60周年記念式典・記念祝賀会出席に合わせて、天城町岡前集落から要望されていた西郷公園周辺に緋寒桜100本植樹する「植樹祭」や徳之島が世界自然遺産登録に備えて各自治体の活動に「夢」振がどう云うお手伝いが出るかを話合う交流会や胸襟を開いて何でも話し合える宴席の懇親会も実施しようと8/5の理事会で決定し、10/19～22関東在住の「夢」振会員10名以上が帰郷しました。

10/19夕方徳之島空港に到着すると、「夢」振 正会員で「一般社団法人 結いの島」(理事長 井藤守仁氏)が井之川公民館で多くの集落の方々と共に井之川集落の伝統芸能「夏目踊り」で歓迎宴席を設けて頂き、大いに盛り上がり22時近く迄飲んで語って踊って時間を忘れて過ごしました。

20日午前中は西郷公園周辺に緋寒桜100本植樹する予定で9:30集合の為、9時前には宿舎を出発。9:30～植樹開始したが、既に数日前に届いていた桜の木を枯らしたらいけないと云う事で岡前集落の皆さんが97本は植樹終了しており我々は3本のみ植樹しました。西郷公園には2012年に「夢」振植樹標識の桜が数本大きく育ってありました。恐らく毎春には多くの人達が花見を楽しんでいるだろうと嬉しい気持ちになった次第です。

昼食の岡前集落公民館の周りも多くの緋寒桜が植えて有りましたが塩害等で葉は全く残っていなかったが、ただ、クロトンだけは鮮やかな表情で我々を迎えてくれました。その後天城町役場を表敬訪問しましたが重要来客中で有った為、「夢」振一行は12:30～の亀津の徳之島町制60周年記念式典・記念祝賀会出席の為、亀津へ向かいました。

途中一昨年井之川集落の「大野原公園」に緋寒桜100本植樹し、全ての木が夏には葉が緑鮮やかに茂っていたが、先日の台風24号の影響で枝は折れ、葉は塩害で枯れたように全て落ちてしまったと聞かされていたので、状況を見て行った所、殆ど新芽が出始め、周辺の雑草も刈り取られ、手入れが行き届いている印象を受けました。

徳之島町制60周年記念式典・記念祝賀会では亀津小・中・徳之島高校の合同の統率の取れたキビキビとした演技に感動と云うか、将来の大きな希望を感じ、心満たされた思いでした。また、フラワー活動で云えば我々は徳之島町では「夢」振の正会員でもある池間の赤崎富千郎さんが何十年と四季折々の花で島人や観光客の心を和ませて来た姿勢に感銘を受けて来ていましたが、今回の60周年記念式典で徳之島の「花いっぱい運動」感謝状贈呈で私共が初めて知る方4名や若葉会(井之川高齢者クラブ)・下久志ハツラツ会(下久志高齢者クラブ)・諸田高齢者クラブ・港川高齢者クラブと各地区の高齢者が熱心に取組んでいる事を知り、フラワーアイランド構想が多くの地区に浸透している状況に「花の徳之島」の実現を確信した次第です。県も18年度からこれまでの徳之島町の熱心な要請に対して予算を付けてくれるようになったと交流会席上企画課長が話されておりました。一方観光PRについても徳之島出身者で各地で活動している方々が大勢の友人・知人と共に参加されている姿も印象的でした。中には埼玉県の方でこれで徳之島訪問は8回目と云う方もおり、各地で溢れる郷土思いの方々が徳之島PRに熱心に取組んでいる姿を目の当たりにした次第です。

21日は16:20～亀津の「ホテルニュー西田」で交流会、引続き懇親会が実施されるが、それまでは自由行動の為、お墓参り、闘牛見物、ゴルフ、同級生達との食事会・カラオケ等思い思いに過ごし、16:20～30名以上が出席し交流会を開始しました。交流会・懇談会を通じて特に印象に残ったことは、伊仙町の大久保町長がご挨拶で語った、今回の台風24号で殆どの農産物、花、木が大被害を受けたが、ただ、長命草とコーヒーの木が全く被害を感じさせなかった。ここから今後の台風対策のヒントが得られそうと云う事と伊仙町在住でフラワー活動に熱心に取組んでおられる「夢」振 正会員の平美香子さんが殆どの花木が台風24号の被害を受けた中でクロトンだけは被害を感じさせなかったと云う点でした。クロトンについては奇しくも天城町の岡前公民館で我々が感じたことを伊仙町で裏付ける状況で今後のフラワー活動のヒントになりそうである。

今回3泊4日の超多忙スケジュールで有ったが、連日晴天に恵まれ、塩害で葉が落ちていた緋寒桜の新芽を目の当たりにし、各集落でフラワー活動熱心者を知り、県のフラワー活動に対する協力姿勢も知り、徳之島出身者が各地で熱心に徳之島の観光PRに取組んでいる状況も分かり、小さい活動も長年続ければ「継続は力なり」を実感した旅になりました。

ふるさと：心の支え・掛替えのない財産

心 訓 (福沢 諭吉)

NPO 法人徳之島「夢」振興会議  
専務理事

町 田 憲 孝

(井之川出身)

〒257-0056 神奈川県秦野市新町 10-27.

TEL/FAX: 0463-81-5684

Email:[hatamach@yahoo.co.jp](mailto:hatamach@yahoo.co.jp)

1. 世の中で一番楽しく立派な事は一生涯を貫く仕事を持つ事です。
1. 世の中で一番みじめな事は人として教養のない事です。
1. 世の中で一番さびしい事はする仕事のない事です。
1. 世の中で一番みにくい事は他人の生活をうらやむ事です。
1. 世の中で一番尊い事は人の為に奉仕して決して恩をきせない事です。
1. 世の中で一番美しい事はすべての物に愛情を持つ事です。
1. 世の中で一番悲しい事はうそをつく事です。



2018・10・19 井之川公民館にて 「夢」振会員歓迎「夏目踊り」宴会  
 一般社団法人 結いの島(井藤守仁 理事長)主催



2018・10・20 午前中 岡前集落 西郷公園にて緋寒桜100本植樹  
 奥に見える大きい緋寒桜は「夢」振が2012年植樹



2018・10・20 午前中 岡前集落 西郷公園にて  
 「夢」振 植樹祭(緋寒桜100本植樹) 「夢」振会員と岡前集落の皆さん



2018・10・20 午前中 岡前集落の西郷公園にて緋寒桜100本の植樹祭終了後  
 岡前公民館にて:岡前集落の永井区長や集落の皆さんと会食しながら懇談



2018・10・20 午後 徳之島町制施行60周年記念祝賀会(於:徳之島町体育センター)  
 国会議員・知事・県議会議員等多数列席(「夢」振会員も20名以上出席)

# 島の西郷さん

～西郷さんが徳之島で過ごした71日間～

天城町歴史文化産業科学資料センター  
ユイの館々長 松村 義則

## はじめに

西郷隆盛は、薩摩藩の身分制度の中でも与力に次ぐ下から二番目の「御小姓組」という下級武士から、260年余りも続いた徳川幕府（江戸）を倒し、明治維新の原動力となり、まさに日本の近代国家の礎を築いた立役者であります。

その西郷が、国父島津久光の怒りに触れ、文久2（1862）年7月、政治犯の未決囚として遠島処分となり、徳之島で約2か月余りの「流罪人」生活を送っております。その間、住民との交流をはじめ愛加那や子供達との再会、そして悲しい別れなど数々の逸話を残しております。

そこで、西郷はなぜ徳之島へ島流しになったのか、また、島流しとなった直接の原因とは何だったのか、また、徳之島までのような経路を辿って来たのか、その足取りは、そして、徳之島ではどのような暮らしをしていたのか、等について関連歴史資料や伝承（逸話）等を基に記してみたい。

## 第一章 なぜ西郷は徳之島へ島流しになったのか、またその原因とは？

### 1. 西郷と馬関事件

久光は、ペリー来航に始まる欧米列強の外圧から日本を守るには、全国270余りの大名が分割統治している各藩と、その頂点に徳川幕府が在るといふ「幕藩体制」を改革し、天皇を中心とした独立国家としての日本を創る、いわゆる「公武合体論」者だった。

そのため、自ら兵を率いて京都へ上り朝廷から幕政改革の勅許（許し）を受け、さらに江戸に上り徳川幕府に対し「政治改革」（\*人事改革、一橋慶喜を将軍後見職・松平慶永を大老）を迫る積りだった。

そこで、この計画を成功させるためには、先君斉彬の側近として国事運動の経験や諸藩の有志などと親交の深い西郷が最適任者ということで大島（\*龍郷）から呼び寄せその先導工作（\*案内役）を命じた。

ところが西郷は斉彬ならともかく、藩主でもない無位無官のしかも薩摩から一度も江戸で政治活動を行ったことのない地ゴロ（\*田舎者）の久光が朝廷や幕府と話し合ったところで改革の見込みは無いとの思惑からこの命令を断った。「～かような企ては、先君（斉彬）さまのような人望、実力ともに備わった人でなければ成功いたしませんまい。三郎（久光）さまは“地ゴロ”でごわす。荷が重すぎというものです。」と言い放っている。著 加来耕三「西郷隆盛と薩摩士道」

\*久光を「地ゴロ」呼びわりの西郷の発言は家臣にあるまじき不遜な行為で、感受性の豊かな久光を深く傷つけ久光が生涯に渡って西郷を嫌った大きな原因の一つとなった。また、当時、君命は絶対的で死罪が相当だが、そうしなかったのは精忠組や斉彬の薫陶を受けた西郷の人望、あるいは後々の政治的利用を考えていたのではないだろうか。筆者。

しかし、西郷はこの計画の推進者の一人だった大久保の説得を受け入れ久光と上京することになった。

久光から「先発して九州諸藩の情勢や有志達の動きを視察して、馬関（\*現在の下関）で余が来るのを待て」との命令を受け、文久2年3月13日村田新八を伴って出発、熊本・佐賀長崎・福岡各藩の動向を視察しながら、22日下関竹崎の廻船問屋「小倉屋」の白石正一郎宅に着いた。

白石正一郎宅に着いた西郷は、そこで筑前藩士の平野國臣や薩摩藩士の森山新蔵から「今、大坂や伏見では尊王攘夷過激派の志士たちが集まり、久光の上京を討幕の好機ととらえ、久光を盟主に討幕運動を起こそうと暴発寸前の状況になっている」との驚くべき情報を耳にした。

この事態を憂慮した西郷は久光の待機命令を無視して急遽その夜の船で大坂へと向かった。

一方、久光は側近の小松・大久保・中山以下1,500人余りの兵を引き連れて3月16日に鹿児島を出発、28日に下関に着いた。

ところが下関に着いてみると、西郷がいない「余があれば下関で待て」との命令を無視し勝手に行動を起こした西郷に「あやつ、どこまで俺を愚弄するつもりか！」と久光は激怒した。

さらにこれに追い打ちをかけるように、4月6日播州室津港（\*現在の兵庫県明石市室津漁港）に着いた久光に、西郷のかつての同志、有村俊斎（\*海江田信義）や堀次郎（\*伊地知禎馨）から、「西郷は志士たちをなだめるどころか逆に扇動している」との不利な讒言があり、これを聞いた久光はこれまで溜まっていた怒りが一気に爆発、直ちに西郷、村田、森山を捕縛し罪人として国送りを命じた。

4月11日、村田、森山とともに西郷を乗せた薩摩藩船「天祐丸」は4月下旬鹿児島島の最南端「山川港」着いた。そこで乗船したまま上陸も許されず約1月余りも滞船させられ罪の決まるのを待った。

ようやく罪が決まり、西郷は「徳之島」へ、村田新八は「喜界島」へと流罪が決定した。

一方、森山は命令が来ないのを苦にして、西郷が眼の治療のために上陸した留守中に船牢で自刃した。

## 2. 西郷の流罪理由

西郷の島送りとなった罪名とは

- 1条 浪人共と結託して、暴動を企てたこと。
- 2条 血気盛んな青年達を教唆扇動したこと。
- 3条 久光の江戸へ上ることを阻止しようとしたこと。
- 4条 命令を無視して下関から無断で上坂したこと。等である。

これらの流罪理由について、西郷は7月下旬頃、徳之島(\*岡前)から大島代官所見聞役の「木場伝内」に出した手紙に「一向に胸に落ち申さず」といって、一条ことに弁明しこれ等の理由は全く納得できないと反論している。しかし、一方では「〜ご存じの通り暴言を吐き候儀は多くこれあり候。其の罪逃れ難く候間〜」とその罪を認めている。「西郷隆盛全集第一巻 P199」

## 第二章 西郷の徳之島までの足どりは？

### 1. 西郷と宇留満乃日記

島送りとなった西郷の山川湊出帆以降の経路について、村田の「宇留満乃日記」を基に記してみよう。

この日記は、昭和52年4月東郷實晴等によって、新八の孫の村田経磨宅の遺品の中から発見され、西郷の山川湊出帆以降の足どりについて従来の説を覆す貴重な史料である。

この日記は、村田が島流しとなり、文久2(1862)年6月10日、喜界島寄船「白山丸」に乗り込み、南下して屋久島の一湊、七島灘を経て7月2日喜界島の「湾村」に到着するまでの23日間に渡っての航海の様子を書いた日記である。この日記によると、「大島三右衛門」から「大島吉之助」に改名した西郷を乗せた船は、14日に村田と別々に山川湊を出帆している。「〜此の朝未明南北に出帆相別れる。〜」、途中風の為船は進まずようやく18日の朝方に屋久島の一湊村湊口に着いている。「〜大島氏の船も爰所に今朝来たりという。〜」\*一湊の港で西郷が壺で煙草を吸っていたのを見たとの逸話が残っている。

また、25日の午前10時から午後2時前まで西郷が談笑して帰ったと書かれている。

「〜四ツ時分より大島氏来る八ツ前被帰。〜」したがって、この日記から西郷は6月18日から25日まで屋久島に滞在していたことがわかる。

その後西郷を乗せた船は、翌26日頃に一湊を出帆し、汐掛り・風待ちのため29日頃に西古見(\*瀬戸内町)に寄港している。そこで、龍郷間切横目藤長(\*後の得姓)や両謙(\*兄富謙と弟為堅)宛てに30日付の手紙を書いて鹿児島から同じ船で帰って来た龍郷の宮登喜に持たせている。

\*宮登喜は、龍郷の島役人(掟役)。西郷が赦免され龍郷を離れるときに村人を代表して共をして鹿児島へ上った。

西郷は、西古見に4日間ほど滞在し、翌5日の朝、徳之島に向けて出帆。夕方に天城町浅間の湾仁屋湊に到着している。\*西郷が西古見に数週間滞在し島役人たちは娘達を集め歌舞、酒宴で歓待した。「西古見集落誌」

また、川俣統憲(\*故人元高校校長)の話によると、西郷は3、4日滞在し部落民から歓待を受けたと古老から聞いた。

また、文久3(1863)年9月26日、沖永良部島から琉球在藩奉行所の米良助右衛門へ出した西郷の手紙によると「〜大坂より船にて山川迄罷り超し候処、宿許へも罷り帰らず候て直様船移り替え、徳之島へ7月初旬相着き候〜」と記されている。「西郷隆盛全集第一巻 P236」

したがって、これ等の日記や手紙の内容から西郷の徳之島到着は、文久2(1862)年7月初旬(5日)頃であったことが推測できる。

### 2. 西郷と湾仁屋

5日夕方に湾屋湊に着いた西郷は、島役人の津口横目(\*港湾取締・砂糖密売取締)の船検査が終わり、上陸はしたものの居所が決まっておらず道案内に困っていると、鹿児島から警護してきた足軽と島役人たちが話し合い、配所が決まるまで近くの百姓直道宅(\*後の湾姓)に止宿させることにした。

\*当時は流罪人の居所は島の代官が指定していた。

一方、<sup>おかげんあつかいそうよこめよりなかつため</sup>岡前 暖 惣横目 寄仲為（\*後の琉姓）は、津口横目から大きな遠島人が来たとの連絡を受け早速直道宅へ出向き、遠島理由など色々と尋ねた。西郷は「自分は大島三右衛門という者で久光公の怒りに触れて島流しとなった。今後何年居るかわからないがよろしく頼む」と答えた。

仲為は、そのことば使いや態度・風格に接し非凡なるものを感じた。そこで早速早馬を駆けて亀津の代官所へ出向き岡前への配所替えを願い出た。

#### \*薩摩藩時代の徳之島行政区画

\*三間切（東間切・面縄間切・西目間切）に分け、更にそれぞれの間切を六つあつかいの 暖 に分けている。

\*六暖 東間切（亀津暖・井之川暖）・面縄間切（伊仙暖・喜念暖）・西目間切（岡前暖・兼久暖）

\*「惣横目」現在の警察署長と副町長の役目。

\*当時、湾仁屋（浅間）の行政管轄区域は西目間切岡前暖で、与人（\*現在の町長）に天城の榊為基、惣横目に亀津出身の記喜美静、その下に惣横目寄として仲為がいた。

#### \*薩摩藩時代の湾仁屋 湊

湾仁屋湊は、薩摩藩時代は藩の指定湊で井之川を表玄関とすれば、裏玄関とも言われたほどの良湊であった。当時は、藩船や砂糖積船等の大型帆船の出入りが盛んであった。その為、湾仁屋には貢納糖を入れる為の「砂糖蔵」や配当米等を入れる「御（地）蔵」が並んで建っていた。その周囲は高さ3メートルくらいの石垣が積みめぐらされていたという。

蔵付近には、役人等の「詰所（番所）」があり、その為役人や沖仲士土夫等相手の遊女の宿“トイヤバ”や簡易飲食店等があり大変な賑わいだったと伝えられている。

\*また、元禄15年「琉球國大島絵図」には「湾ニヤ泊は、入1町20間、深さ8尋、広さ20間」との記録がある。

### 第三章 西郷の島での暮らし

#### \*徳之島滞在中の西郷の心境

徳之島へ島流しになった西郷は、当時の心境を文久2年7月下旬頃岡前から大島代官所見聞役の木場伝内に出した手紙に「～大島に居たときは、召喚を今日か明日かと心待ちし、時には癩癩をおこしたりして一日一日が苦しみの連続であったが、ここ徳之島ではもう赦免は無いだらうからあきらめて何の苦しみもない。しかし、何か舌がおこればすぐに国許（鹿児島）に登るが、平常ならばたとえ赦免されても徳之島に残る積りだ～」と認めている。「西郷隆盛全集第一巻 P202」

この文面を見る限り、西郷は余程徳之島が気に入ったように見えるが無理して虚勢を張っている面も伺える。そして、「もう、バカらしくて忠義立ては取りやめにしたい」と投げやりとも思えるような心境を率直に述べている。「西郷隆盛全集第一巻 P203」

#### 1. 湾仁屋での暮らし

直道宅の表の間を借りて自炊生活を始めた西郷の暮らしは質素で簡単なものだった。直道の妻マツが朝5合の飯を炊いて出すとおかずは自分でこしらえた。夏の暑い時分だったので、よく上半身裸になり鹿児島から持って来た鰹節を自分で削り醤油や味噌をかけて食べ、夜は大抵ソーメンなどを食べていたという。\*当時の成人男性の食事は、一日二食で米5合宛でだった。

また、鋤や農具類、釣り道具の多いことに直道家族も驚いたという。おそらく、徳之島では扶持米（\*藩からの給料）が無いので自活のため百姓でもしなければ食っていけないと思ったのでしょう。

#### 2. 岡前での暮らし

「～島代官より申し達すべきとの趣にてとの御座候故、仮屋本より五里隔て候岡前と申す所へ潜居 仕り候～」<sup>つかまつ</sup>「西郷隆盛全集第一巻 P199」

代官から配所替えの許しを得た仲為は、一週間後の7月12日に村の青年たちを引き連れて西郷の荷物を直道宅から岡前の勝伝宅（\*後の松田姓）に運ばせた。そして、翌日、倅（\*養子）の長男仲祐（17歳）と次男の五郎（\*後の小林延賢）（15歳）を連れて西郷を尋ね、仲祐には学問を五郎には炊事や雑役などをさせ、暇な時には学問を教えるよう頼んだ。

西郷は、岡前に約一月余り（\*約47日間）滞在しており、その間、住民との交流や代官に対する仁政（\*農民の立場を思いやっで行う政治）、愛加那や子供達との再会そして悲しい別れ、等数々の逸話を残している。

その中からいくつか逸話を紹介してみよう。（\*小林正秀「徳之島岡前村と西郷隆盛」P1～15）

#### ① 宿屋の婆々の説教

ある日、勝伝の婆やが西郷をお茶に呼んで、世話をしながら説教をしたとの逸話が残っている。

「遠島人は、普通は一度遠島されると改心するものだが、あなたは二度も遠島されると聴くが余程の横着者だね。今後は、魂を入れ替えて早く赦免されるようにしなさい。」とここんと説教した所、西郷は大変恐縮し、頭をかきながら「どうも性根が直らぬことばかりですみません。これからは気を付けます。」と答えたという。

しかし、後で婆やは相手が天下の「大西郷」とわかり大変申し訳ないことをしたと後悔したと伝えられている。

## ②キクシル婆やの注意

ある日、西郷が大城岳から薪を拾って帰りに、前野村の畦道で休憩していると、たまたまそこへ老婆がイモを入れた籠を背負い通りかかった。

老婆は、大きな西郷を見て驚いたように立ち止まり「自分は、キクシルという者ですが貴方様はどちらからいらっしゃいましたか？」と丁寧な言葉でたずねた。そこで西郷が「自分は、大島三右衛門という者で鹿児島から来た遠島人です。」と答えると、「えっ！あなたも遠島人ですか、私は遠島人の娘です。あなたが薪を担いでいる姿を見て亡き父を思い出して懐かしくてなりません。」と喋りきりに涙を流し「山はハブが多いから、山に入る時は十分に気を付けなさいといけませんよ。」と注意をした。

西郷は、老婆の親切に感謝し「ありがとう、お礼の代わりに煙草を上げよう」と言って持っていた煙草をあげるとキクシル婆は喜んで煙草を受け取り立ち去って行ったという。

## ③お茶と米の物々交換

西郷は、大島（\*龍郷）では扶持米（\*禄高）として6石（\*後に12石加増）が藩から支給されていたが徳之島では流罪人ということで扶持米は一切無く自活をしなければならなかった。そのため、鹿児島から持って来たお茶と米を交換し当分の飯料を得ていた。

このことについて、文久2年8月20日付、木場伝内に岡前から出した手紙によると「当島は、米国にて鹿児島から持って来たお茶をすべて米と交換したところ、今では2石ばかりになり、飯料には困りません」と書いている。「西郷隆盛全集第一巻 P206」

\*2石は当時の成人男性の約1年分。1日5合×365日=1,825合。1石=1,000合。

当時、島では、お茶は大変な貴重品で、お茶1斤あたり黒砂糖25斤替えだったとの記録が残っている。

## ④梅干しと婦女子たち

村の婦女子や娘たちは、時々西郷に近くの泉から飲み水を汲んであげると西郷は大変喜んでお礼に“梅干し”をあげたところ婦女子たちは一度も食べたことのない梅干しを口に入れた途端にあまりの酸っぱさに口をしかめてあわてて吐き出したという。

この様子を見て、普段はめったに喜怒哀楽を顔に出さない西郷がそのしぐさが可笑しくて大笑いしたと伝えられている。

## ⑤三ヶ条の仁政

西郷が岡前から文久2（1862）年8月20日に木場伝内に出した手紙には、代官に対し三ヶ条の仁政を行ったとある。「西郷隆盛全集第一巻 P204」

その一ヶ条は、書役の姦計（\*悪巧み）により自作砂糖と交換する注文品の良い物は品不足でまだ届いていないと偽って当人へは渡さず、自分が勝手に横取りしていた。

このような弊害をなくす為、農民に注文品通帳（\*羽書）を渡すときは与人などが立ち会って渡すようにとの代官からの達しにより役人の横領を阻止した。

二ヶ条は、当時、代官所から砂糖の植え付けや肥培管理など細かく指示があり、特に砂糖の煎じ方については厳しい取締があり勝手に炊くことは出来なかった。

そこで、農民の要望に応じて、砂糖キビが十分に熟した正月以降の適当な時期に煎じて良いとの達しがあり作人どもは大喜びしたという。

三ヶ条は、正余計糖（\*租税や品物代を差し引いた残りの砂糖）と米との交換時期が従来は砂糖総勘定終了後の5・6・7月に限られていたが、途中でも交換ができるようになり農民は大喜びしたという。

\*正余計糖というのは、正糖は納税糖の事で必ず納めるべき砂糖、余計糖は指定された納税糖の生産量が指定量以上できた場合の砂糖の事で、米や各種の衣食住の品物と交換することができた。

## ⑥愛加那や子供たちとの再会、そして別れ

愛加那は1歳半になった菊次郎と西郷が龍郷を去る時、身ごもっていた生後50日余りの乳飲み子菊草、そして兄の富堅それに島役の宮登喜を伴って約30里（\*120km）離れた龍郷湾から漁船（\*板付け舟）で徳之島、湾屋仁湊へ向かった。（\*龍郷町誌）

しかし、湾屋仁湊は西風が強く接岸は難しいとの船頭の判断から、山湊（\*徳之島町山）に接岸した。

その晩は山村に一泊し、翌日朝早く菊次郎を兄の富謙が背負い、生まれたばかりの菊草は愛加那の懐深くしっかりと抱いて岡前へと向かった。

ちょうどその頃、西郷は昼寝をしようと横になったところへ愛加那が子供たちを連れて尋ねて来たのでびっくりし「おう！愛加那か、豚の子ドンが来た、きた！」と大喜びをしたという。

\*西郷は、安政7（1860）年2月28日付大久保はじめ同志宛てた書簡に、ストレスで激太りしたと自嘲気味に自分の事を「豚同様」と記している。「西郷隆盛全集第一巻」

愛加那が子供たちを連れて西郷を訪ねて来たことはすぐに村中に伝わり、夜になると仲為夫妻をはじめ村役人や隣近所の人々が酒肴を持参して勝伝宅に集まり、夜通し八月踊りや島唄を歌い盛大な「<sup>むけ</sup>迎<sup>ゆふえ</sup>け祝（\*歓迎の宴）」が開かれたと伝えられている。

しかし、運命とは非情なもの、その日の夕刻に亀津代官所付役中原万兵衛が早馬を駆けて久光からの沖永良部島への「遠島命令書」を届けたのである。

江戸から帰った久光は、留守中に主席家老の喜入撰津らによって、西郷を徳之島へ遠島するとだけの軽い処分に激怒した。腹の虫がおさまらない久光は、直ちに西郷を再び沖永良部島へ遠島を命じた。

着島後は囲いを造って昼夜開けないように押し込み2名の番人を付けるように命じた。更に、護送の際は船牢に入れて行くようにとの厳しい命令だった。

「一等を減し、一生不返之流罪に決し申揃」。当時の沖永良部島は死刑に次ぐ重い罪人が流される島だった。

\*沖永良部へ遠島したのは情報の遮断のためではなかったか。（\*原口泉「薩摩侵攻400年未来への羅針盤」P180）徳之島は藩の指定湊があり、砂糖取引で藩役人だけでなく商人も出入りするが沖永良部島は指定湊が無く、情報が遮断されていたと考えられる。また、「お由羅」の指図により西郷を沖永良部島で死亡させる積りではなかったか。筆者。

### ⑦西郷井之川へ出発

西郷が沖永良部へ島替えになったことはたちまち村中へ伝わった。しかし、牢屋に入れての遠島とは信じられない程の驚きだった。

仲為は、早速、村役人や永生などを連れて勝伝宅へ挨拶に伺った。そこで西郷は、「君命だから沖永良部島へのお出立の日取りは延ばすことは出来ない、明日にでも井之川へ出発する積りでいるが、心残りは愛加那と子供達のことだが出来るだけ早い船便で龍郷へ帰すようにしてもらいたい。」といった。

仲為は、「わかりました、明日にでも青年達に荷作りをさせましょう。愛加那や子供たちは船便次第で龍郷へ帰すようにするのでご心配なく」と言った所、西郷は安心した様子だった。

早速仲為は、翌27日に村の青年たちを集め、藁を叩き、縄をない村人総出で荷作りをし、夕方までには全ての作業を終えた。その晩は夜遅くまで踊りを踊ったり、島唄を唄ったりして別れを惜しんだという。

明けて28日に村の青年達70人くらいが、西郷の荷物を担ぎ、重い物は馬や牛に乗せて三京の山越えて井之川へと出発した。

青年達が出発した後、勝伝の表の間では「<sup>むしゆ</sup>盛塩と<sup>みき</sup>お神酒」が準備され一通りの儀式が終わると、西郷はおもむろに「愛加那、生きてさえおればいつかは必ず会える。世の中はいつまでも悲しいことばかりは続かない。この子供たちをりっぱに育ててくれ」と言って菊次郎・菊草を抱き上げ頬ずりをした。

その姿を見た愛加那は大声で泣崩れた。この光景を見ていた村人たちも目頭を押さえ皆号泣したという。また、出発の際、西郷は勝伝宅の縁側で草履の紐を結びながら大粒の涙を流し、その涙が草履の上にぼたぼたと落ちたのを仲為は見たという。（\*小林正秀著「西郷南洲傳」P104）

西郷と愛加那や子供たちとの水入らずの生活はわずか2日間（\*8月26日～8月27日）であった。

\*また、「桂久武日記」によると、閏8月11日、龍郷の宮登喜が徳之島の西郷のところから帰ってきたので立ち寄ってくれたと記録されている。「此日龍郷之宮都喜徳之嶋より帰侯て立寄候。」「桂家 大嶋渡毎諸覚留 P34」

この記録から、愛加那や子供たちの岡前での暮らしは、16日間だったことがわかる。

### 3. 井之川での暮らし

西郷は、沖永良部島への遠島命令書（\*7月14日付）を8月26日に岡前で承り、27日には村中の人々総出により荷作りをし、28日に村の青年たちの手で荷物を井之川まで運んだ。

そして、沖永良部島行きの船が来るまで、本来ならば流罪人である西郷を亀津代官所の格護所（\*留置所）に留置しておくべきであるが、時の代官、上村笑之丞や詰役人たちの計らいで東間切惣横目の屋山宅（\*後に郷土格となり奥姓を名乗った）での止宿を黙認した。

その間、代官所の詰め役人たちが井之川のお蔵拜見と称して、よく出張し屋山宅を訪れお茶を飲んだり、碁を打ったり、時には酒食を共にして西郷を慰めたといわれている。

滞在中は真夏の8月であったので、大男の西郷は汗をかくとすぐ近くを流れている奈田川で水浴びをしたり、川エビを獲ったりして一日を過ごしていたという。また、暑い日にはよく庭へ出て庭先の“松の木”に腰かけて涼を取っていたといわれている。村人たちはこの松の木を“西郷の腰かけ松”と呼び現在も奥山宅の築山にこの松が残っている。

\*当時の井之川湊は、亀津の代官所に近いということもあって、藩の指定湊であった。そのため鹿児島からの船の発着はほとんどが井之川湊を起点とした。

また、当時、湊の近くには貢納糖を入れる「砂糖蔵」や配当品を入れる蔵が立ち並び船員や沖中仕などの出入りが多くそのため飲食店や商売女（\*ジュリ女）が多く、大変な賑わいだったと伝えられている。

#### 4. 西郷沖永良部島へ

西郷の井之川滞在は、**17日間**であった。

閏の8月14日（\*後の8月、この年は閏年で8月が2回あった。）西郷を乗せた船「宝徳丸」は沖永良部島へと出帆した。

西郷は、帯刀を外され、直ちに船牢に入れられ、東間切惣横目禎用喜と藩から派遣された警視二人（\*濱島某・永井某、何れも郷土）に護送され沖永良部島へと向かった。

途中、禎用喜や役人が船牢から出てくつろぎなさいと進めても西郷は、君命だからといって一歩も船牢から出なかったという。船は同日の夕刻に和泊の伊延湊に着いたが未だ牢屋ができておらず2日間船牢で過ごした。16日によりやく牢屋（\*海岸の崖に建てられた吹きさらしの「格子牢」）に入った。

約2ヵ月間、格子牢で過ごした西郷は、間切横目の政照（\*後に「土持」姓を名乗る）の計らいで「**座敷牢**」（\*家の中に拵えた牢屋のこと。）に移り、約1年6月の流罪人生活をおくった。

### 第四章 西郷と琉仲為

琉仲為は、文政3（1820）年天城町岡前で生まれる。父仲祐は<sup>うんのまざりいせんあつけいけんぶむら</sup>面縄間切伊仙暖検福村出身で、妻「カメ」との間に2男1女（\*長男禎幾・次男幾祐・長女トク）が生まれたが、岡前の総横目時代、松原の「マダ」を後妻にもらい、1男1女（\*三男仲為・次女カナソメ）が生まれた。

仲為は、岡前、井之川、伊仙、兼久暖各役場の惣横目を歴任している。

仲為と妻「もつ」との間には子供が無く、後に禎幾の長男、幼名彌太郎（\*後の仲祐）と妹カナソメの長男仲祐、次男五郎を養子として自分の籍に入れた。

琉家は、先代仲祐から仲為、仲祐、仲祐と続く。いずれも祖父の仲祐にあやかって付けたものと思われる。名頭改名訓によると、当時男の子が2歳になると名前を父方の先祖代々の「譲り名」を継いでつけることが多かった。そのことは、祖先が残した業績を追慕させると同時に本人にも祖先に恥じない行動をするようにとの深慮から出たものである。

仲為は、勤務中自費で<sup>つかれきくにん</sup>勞作人（\*貧民）に上納米や上納糖を援助したり、荒地を配当し助けたり、また、岡前村に水路を開き、ウガンの原からユンメ道までの北側農道を開設した他、湾仁屋湊や平土野湊の日記所の修理などを行い、米にして236石余り（\*砂糖に換算して11万3千斤余）、この他砂糖1万斤を献上した。

明治2（1869）年（\*文久3年説あり）その業績が認められ、藩家老右衛門より「嫡々迄代々郷土格」が許され「琉」または「岡」の姓のうち、どれか一つ名乗るようにとの藩命を賜り、「琉」姓を願い出て許可された。その後、仲為から4代目の寅吉の時代になって琉姓から「岡本」に改姓している。

仲為は岡前暖役場勤務中、西郷を自宅近くの松田勝伝宅に住ませ、惣横目という流罪人を取り締まる側の役職にも拘らず西郷の面倒をよく見たことは諸記録等に明らかである。また当時、島には珍しく学があり、日記（\*仲為日記）や手紙などを残した文筆家でもある。また、西郷が島ではじめて接したインテリでもあった。明治3（1870）年10月21日、胃腸病（\*胃癌）により51歳で没。

#### \*郷土格と名字

当時は、大和（鹿児島人）に紛らわしい身なりや名前を禁止した。そのため、「何々十郎」・「何兵衛」といった名前を付けることは禁止されていた。

「徳之島代官記史料集成」によると、宝暦11（1761）年、砂糖増産の功績により井之川与人「嶺澄」が徳之島での初の郷土格となり、「砂盛」姓を許された。しかし、天明3（1783）年、藩主重豪の一字姓に改めよとの命令により「伊」姓に改めさせられた。

奄美学「奄美の一字名字と郷土格について—その歴史的背景— 弓削政己」によると「イ・サンジャ」という人の「サクマ屋敷」といわれた屋敷が現在伊仙町伊仙にある。

当時一族の川村清三氏（鹿児島市在住、大正12年1月10日生）によると、「サクマ屋敷から西の方にブレ墓というのがあった。叔父から、そこの隣に「砂盛 伊郷土格之墓」と書かれた墓石があったと聞かされた。」という。つまり、「伊仙暖伊



仙村」の伊をとり伊嶺澄となり、また、「イ・サンジャ」と現在でも風格のある「サクマ屋敷」は、徳之島最初の郷土格である砂盛嶺澄の一族「伊家」に由来するものである。

## 第五章 西郷と琉仲祐

流仲祐は、仲為の妹カナソメと夫芳起の長男として弘化3（1846）年岡前で生まれる。

17歳の時、弟の五郎と共に仲為の養子となり西郷が岡前滞留中に学問を教わるなど、西郷からいろいろと薫陶を受けた。西郷が元治元（1864）年2月に赦免され沖永良部島から鹿児島に帰ると、仲祐は西郷を慕い翌年の慶応元年、閏5月14日に「永保丸」で湾仁屋湊より鹿児島へ上った。（\*「仲為日記」P114）鹿児島に着いた仲祐は、鹿児島上之園の西郷宅に寄宿し先に寄寓していた留守役の川口雪蓬（\*量次郎）から手習い、読書などの指導を受けた。

西郷は、賢い仲祐に将来島役人として期待し学問修行を大いに喜んでいたが、討幕運動のリーダーとして東奔西走していた時期でもあり、仲祐の面倒を十分に見ることが出来なかった。

慶応2（1866）年10月に京都から帰って来た西郷に仲祐は是非自分もお供に連れて行ってくれと頼んだが、京都は危険だからと最初は同伴を許さなかった。

しかし、雪蓬や西郷家族の勧めもあって、せめて島のお土産話でもなればとの思いから10月15日に家老の小松帯刀と共に仲祐を連れて汽船三邦丸で鹿児島を出発、途中長崎、大坂を経由し25日に京都に着いた。京都に着いた仲祐は、西郷屋敷に2か月間暮らしていたが12月に京阪地方に流行った“**疱瘡**”に罹り、西郷兄弟や家来などの手厚い看護もむなしく、12月25日午後10時頃に若干21歳の若さで病死した。（\*暗殺説あり、後述）28日に京都に帰って来た西郷はポロポロと涙を流し仲祐の死を悲しんだという。

西郷は仲祐の死を悼み、慶応3（1867）年2月京都相国寺林光院境内薩摩墓地内に亡骸を埋葬し墓石を建立、永代供養費として寺納金千疋（\*青銅銭）を奉納し丁寧に供養した。

同院台帳には「西郷吉之助家来 徳嶋仲祐墓」側面に寺納金千疋とある。また、鹿児島市常磐町にある西郷家墓地にも墓碑を建立し供養している。その碑銘には、「慶応二柄虎」左に「玄道知徳居士 慶応二年丙寅十二月二十六日」、更に墓石側面に「於京都没 徳之嶋 仲祐」と書かれている。

また、慶応3年2月、中原万兵衛から福山清蔵（\*徳之島代官所附役）に宛てた書状によると亀津代官所に仲祐を呼んで、仲祐の訃報を知らせると同時に**荷物と遺髪**を渡すようにと書かれている。

### 1・仲祐の死亡説について

仲祐の死亡については、病死説や暗殺説がある。

**\*慶応2年12月29日 川口量次郎宛ての西郷書状**「西郷隆盛全集第三巻 文書番号190」（前文闕失）申し、最初列れ登り候節御存じの通り相留め候得共、強いて罷り登りたしとの事故、島人の事にはこれあり、島土産にも相成るべしとの老婆心却って不幸の事に立ち至り、只列れ登り候不仕合わせを怨み繰返し相考え、返らん事を心苦しく涙に沈み候事に御座候。嘸や島許の親共承り候わば、愁傷如何計りかとは是のみ案勞 仕り候事に御座候。此の節髪のぼの毛丈だケは差し下し候に付き、島便の節は万兵衛様へお頼み下され、誰ぞ親類の者へ御宛下され候てお遣わし下さるべき候。いづれ道具類は私罷り下り候節、跡より差し遣わし候様取り計らうべき候に付き、左様お含み下さるべき候、別紙医按相添え差し遣わし候に付き、お受け取り下さるべき候、此の旨御意を得奉り候。 頓首。

12月29日

西郷吉之助

川口量次郎様

【解説】（\*沖永良部郷土研究会会長 先田光演）

この手紙は、慶応2（1866）年12月29日、仲祐の死亡5日後に西郷家留守役の川口量次郎宛てに出した西郷からの手紙である。前文が何らかの理由で切り取られており仲祐の死亡についての病名など詳しい内容についてはよく解らない。医師の死亡診断書も添付したとあるがどのような内容が記されていたのかははっきりしない。

この手紙によると、仲祐と一緒に京都にお供したいというので最初は危険だからとの理由から断ったが、今回は皆さんが是非連れて下さいとの事でしたので、島に帰った時の土産話にでもなればとの老婆心から連れてきたが、取り返しのつかないことになり、心苦しくただただ涙に泣いている。

さぞかし島元の親族がこのことを聞けばその悲しみは如何ばかりかと思うと痛恨の念と仲為に対するお詫びの気持ちで打ちひかれています。とりあえず遺髪を送るので中原万兵衛にお願いして誰か親類の者へ届け下さい。

荷物は自分が帰って来てから送るのでそのようにお含み下さい。なお、別紙で医師の死亡診断書も一緒に送るので、これも遺髪といっしょに島許へ届けて下さい。

## 【病死説】

### ①慶応3年〔1867年〕2月21日 中原万兵衛から福山清蔵宛ての書状

#### 【解説】

この手紙は、川口量次郎から依頼を受けた中原万兵衛が徳之島在番所の附役、後任の福山清蔵宛てに出した手紙である。

徳之島の仲為倅仲祐こと、ご案内の通り一昨年上国し、西郷家に寄宿して丁寧に万事教えられておりましたが、昨年10月吉之助様が上京を仰せ付けられたところ、仲祐がこの節はどうしてもお供したいと言うので、先生は島人なれば都見物をさせたいがこれからも機会がいくらでもあるので今回はしっかりと留守番に勤め、次に帰郷して上京する時に連れて行くからと申し付けましたが、至極心残りの様子でしたので、兄弟や量次郎殿、その他の方々もお供させてほしいと嘆願したので、やむなく連れて行くことになりました。

京都に着いた仲祐は都見物などをし、至極元気に過ごしておりましたが、疱瘡に罹り家族や家来などの看病をしたそうですが、惜しいかな12月25日午後10時頃亡くなりました。

何分にも疱瘡に間違いなく、このことについて吉之助様は大変御愁されたといひます。

孝明天皇も疱瘡を患い、12月25日午後8時崩御あそばされました。仲祐の病死については、さぞ仲為をはじめ家族中が驚きと同時に深い悲しみに打ちひかれている様子が眼前に見えるようだと云われますので貴殿の方から仲為を代官所に呼んで、同夜同時刻に天皇も同じ病で亡くなったことについては望んでも出来ないことなど、貴公に頼んでくれとの事でございます。

仲祐の死亡については、相国寺に土分同様の石塔を建て、また、鹿児島においても西郷家墓地に同じ石塔を建て手厚く供養をし、脇のも者は幸せな仲祐だと話しております。

荷物は二つ、貴公宛てに**新納源左衛門**へ頼んで既に送ったとのことですので親族へお渡しください。また、遺髪については**嘉玖保**に渡したとの事です。これもまた親類にお渡しください。

\*「新納源左衛門」は後の亀津代官所の代官。

\*「嘉玖保」について、叶生直子編 古志与仁「与人はれ系譜」によると嘉玖保は後に田地横目を勤め、大正4年に70歳で没している。仲祐の死亡した慶応3年の時は、22歳で、鹿児島へ学問修行か何かで上っており、仲祐の遺髪を持ち帰りを依頼されたと思われる。父嘉玖屋は西目間切の与人を勤めており仲為とは何らかの親交があったものと推測できる。（\*伊仙町郷土研究会会長 義岡明雄）

### ②敬天愛人第13号 平成7年9月14日 山田尚二 「岡前の仲祐と西郷さん」

#### 【解説】

～島では、西郷さんに可愛がられて、友達からねたまれて暗殺されたという噂が流れました。しかし、西郷さんは、医者死亡診断書をつけて手紙を書いていますから、病気で亡くなったのでしょう。

ひどい寒さの中で風邪をひき、肺炎かなんかで急死したのではないのでしょうか。仲祐は、奄美出身者として、ただ一人京都で討幕運動に参加した人となりました。

## 【暗殺説】

### ①昇曙夢著 「奄美大島と大西郷」(昭和2年)

～同僚の嫉妬に会い、京都で暗殺された。～

### ②益田宗児著 「西郷隆盛と徳之島」

#### 【解説】

「～墓碑建立は、西郷の身代わりになった仲祐に対する西郷のせめてもの心使いだったことを物語っている」と結んでいる。この本の参考文献は、昭和39年4月1日付の「奄美新聞」に掲載された小林三郎の「仲為とその一門」に基づいて書かれている。

### ③南日本新聞 {南天} 平成18年(2006年)9月20日掲載 吉満庄司

\*高校教諭・黎明館学芸専門員・現在、知事公室政策調整課専門員

～京へ上った仲祐は、西郷の指示に従い奔走し、あるいはボディガードとして常に西郷に同行した。ところが、西郷が大坂に出向いた留守中、ひとり宿屋に戻る途中、**新撰組の土方歳三らによって西郷**

**と誤って切り殺された。**慶応2年12月25日夜のことである。～相国寺に永代供養費として寺納金千疋という大金を納めている。さらに鹿児島西郷家歴代墓地にも墓碑を建立している。自分の身代わりになって、惨殺された仲祐に対する西郷のせめてもの心遣いをそこに見ることができよう。

\*現在、ユイの館には西郷の直筆書幅1幅と関連書状(手紙)6通が保管展示されている。

## おわりに

さて、2018年1月よりNHK大河ドラマ「西郷どん」の放送が始まりました。直木賞作家林真理子の連載、雑誌「本の旅人」を原作に中園ミホが脚色、徳之島編は第24話として放映されました。

ほんの7分間のドラマでしたがこのドラマを機会に徳之島が少しでも全国に発信されることを期待しつつ、・・・再度「島の西郷さん」としてコンパクトにまとめてみました。

## \*西郷の滞在期間と主な出来事

### 1. 滞在期間

- |  |
|--|
| *奄美大島(龍郷) → 安政6(1859)年1月12日~文久2(1862)年1月14日(3年)  |
| *徳之島(湾屋・岡前・井之川) → 文久2(1862)年7月5日頃~同年閏8月13日(約71日) |
| *沖永良部島 → 文久2(1862)年閏8月14日~元治元(1864)年2月22日(1年6か月) |
| ※滞在期間 約5年間(奄美・徳之島・沖永良部島)                         |

#### ※徳之島での滞在期間

- |                                    |
|------------------------------------|
| ・湾仁屋 7日間(文久2年7月5日~7月11日) 直道宅       |
| ・岡前 47日間(文久2年7月12日~8月27日) 勝伝宅      |
| ・井之川 17日間(文久2年7月28日~閏8月13日) 屋山宅    |
| ※徳之島滞在期間 約71日間(湾仁屋7日・岡前47日・井之川17日) |

### 2. 滞在中の主な出来事

(奄美大島「龍郷」)

- \*安政5(1858)年10月 藩命により「西郷三助」に改名。
- \*安政5(1858)年12月 「菊池源吾」と変名し龍郷へ潜居。扶持米6石(万延元年12石に加増)
- \*安政6(1859)年11月 「<sup>おとまがね</sup>於戸間金(愛加那)」(23歳)と結婚。西郷33歳。
- \*万延2(1861)年1月 長男「菊次郎」誕生。
- \*文久元(1861)年11月 新家屋落成。翌日鹿児島への「召喚命令書」届く。
- \*文久2(1862)年1月 赦免され鹿児島へ2月12日着「西郷三助」を「大嶋三右衛門」改名。
- \*文久2(1862)年7月 長女「菊草」誕生。

(徳之島)

- |  |
|--|
| *文久2(1862)年6月6日(藩命)「大嶋三右衛門」から「大島吉之助」へ改名。「萬留」   |
| *文久2(1862)年6月初旬 徳之島へ差遣。                        |
| *文久2(1862)年6月14日 山川湊出帆~一湊(屋久島)~西古見(瀬戸内町)経由     |
| *文久2(1862)年7月5日頃 天城町浅間湾仁屋湊上陸。「直道」宅寄宿。扶持米なし     |
| *文久2(1862)年7月12日 岡前暖惣横目寄「仲為」の勧めで、岡前「勝伝」宅に転居。   |
| *文久2(1862)年8月26日 龍郷から愛加那・菊次郎・菊草親子来島。(富堅・宮登喜同伴) |
| *文久2(1862)年8月26日 沖永良部島へ再遠島命令書届く。(7月14日付)中原万兵衛  |
| *文久2(1862)年8月28日 三京経由で井之川へ「仲祐」同伴。愛加那親子西郷の許(2日) |
| *文久2(1862)年閏8月11日 愛加那親子龍郷へ帰る。(桂久武日記)(岡前滞在16日)  |
| *文久2(1862)年閏8月14日 井之川湊より沖永良部島向け出帆。(井之川滞在17日)   |
| *慶応元(1865)年閏5月14日 「仲祐」西郷を慕い湾仁屋湊より上国。(仲為日記)     |
| *慶応2(1866)年12月25日 仲祐京都にて病死(暗殺説有)。21歳           |
| *慶応3(1867)年 京都相国寺林光院薩摩墓地・鹿児島常磐町「西郷家墓地」仲祐墓碑を建立。 |

\*元治元(1864)年10月、大島吉之助から「西郷吉之助」に改名。明治6年から「西郷隆盛」を名乗る。

(沖永良部島)

\*文久2(1862)年 閏8月14日 沖永良部島伊延湊着。16日下船、格子牢へ。

\*元治元(1864)年 2月22日 赦免。「胡蝶丸」で鹿児島へ(従道・友実)

## \*西郷関連テレビ・雑誌等取材記録 (2018年11月7日現在)

(平成29年)

- ・2月15日(水) 鹿児島市「維新ふるさと館」肥後秀昭(歴史解説員)来館
- ・2月19日(日) 鹿児島県観光連盟 上捨石齊宏一行来館
- ・3月14日(火) 南日本新聞社徳之島支局 銚之原記者来館(26日取材記事掲載)
- ・3月26日(日) (株)JTB九州鹿児島支店 柳井雅史一行8名来町同行
- ・5月11日(木) フリーライター 宮川淳子来館(ラジオ日本・ラジオ大坂・RKB毎日)
- ・5月16日(火) クラブツーリズム一行来館
- ・6月14日(水) ラジオ「みちのしまワールド」ディエフエム。デイウェブ 出演
- ・8月26日(土) 徳之島町図書館職員他一行23名来館
- ・9月22日(金) 徳之島町母間郵便局 尚局長来館(西郷関連記念切手の件)
- ・10月4日(水) 週刊朝日記者 村井・守田来館(「週刊朝日」11月24日号記事掲載)
- ・10月11日(水) NHK鹿児島放送局東川内瑠美来館
- ・11月20日(月) " 東川内瑠美撮影打合わせ来館
- ・11月28日(火) 南海日々新聞社編集局長 松井輝美来館(2018年元日号記事掲載)
- ・12月13日(水) NHK鹿児島放送部副部長 松島剛太ほか撮影班一行来町同行  
\*タレント羽田美智子 宮下純一(2月2日「西郷隆盛紀行～南の島での誓い～」放映)
- ・12月19日(火) (株)ユアーズ・バリュー社長 吉武健志来館

(平成30年)

- ・1月27日(土) 鹿児島県行政書士一行3名来館
- ・2月 2日(金) NHK鹿児島放送「西郷隆盛紀行～南の島での誓い～」放映 42分
- ・2月25日(日) 週刊「観光経済新聞」西日本支局長 神保元英来館
- ・3月1・2日(木・金) 鹿児島県観光プロデューサー 古木圭介来町同行
- ・3月 7日(水) (株)潮出版社作家 高橋直樹他来館
- ・3月 9日(金) 西郷研究家京都在住 原田良子電話取材 ※「薩長同盟」締結の地「御花畑」発見者
- ・3月31日(土) NHK鹿児島放送「奄美群島で過ごした日々」～流転苦難の日々～放映 72分
- ・4月 8日(日) (株)グループ現代演出 望月由美子取材打ち合わせ来館(NHKより委嘱)
- ・4月24日(火) 望月由美子他撮影班来館(西郷関連遺跡等)撮影同行(\*7月下旬頃放映予定)
- ・5月14日(月) 県議会企画観光建設委員会委員長 堀口文治一行来町同行
- ・6月 1日(金) 上智大学名誉教授 高橋久志来館
- ・6月13・14日(水・木) NHK鹿児島放送記者小林雄・アナウンサー内美登志 来館取材・撮影  
(19日夜6時40分放映)
- ・10月21日(日) 中部奄美会ツアー一行47名来館。島の歴史・西郷書状等。
- ・11月 7日(水) 「ゆとりと感動の旅」ツアー(東京)一行来館。島の歴

## 徳田虎雄顕彰記念館竣工祝賀会参加所感

徳之島町山出身東京都在住  
「夢」振理事 川畑 進  
(東京外国語学院 学院長)

### 初めに

平成30年(2018)5月28日、徳之島町亀津のホテルグランドオーシャンリゾートで約250名の方々が出席し、「徳田虎雄顕彰記念館(以下記念館)」の竣工祝賀会行事が盛大に催された。徳田虎雄先生(以下徳田虎雄)の荣誉功績等は既に国内外に広く響き渡っているが、この機会に改めて皆様にもすばらしい記念館の状況と徳田虎雄の歩みについて、誠に僣越ながら小生の所感を述べてみる。

### 1 徳田虎雄顕彰記念館

この記念館は、徳田秀子夫人の「記念館での学びを通じ、島の子供たちが将来の夢を描き、実現しようとする意欲を高めることに資する」との希望もあり、亀徳の「なごみの岬公園」近くに建設されることになった。そして平成29年(2017)5月に建設総事業費四億五千万円をかけて着工し、今年5月に完成した。建物構造は鉄骨造り二階建て、延べ床面積1124㎡、建物の外観は米国のフェデラル様式風で色彩は清潔感と信頼感溢れる白色で屋根は青紺色、緑の島と雄大な紺碧の海に合った白亜の殿堂となっている。建物正面入り口には重厚感のある円柱と玄関ポーチ、二階の建物正面部にはバルコニーが設置されている。

建物内は高齢者や身体障害者に配慮して全館バリアフリーでエレベーター・身障者用トイレ・車椅子等も完備されている。

正面ポーチ右手には「医療法人徳洲会グループ創設者徳田虎雄」の銅像が迎えてくれる。玄関に入ると、左手に多用途イベントホール、右手に西郷隆盛の「敬天愛人」が掲げられた図書室(蔵書約七千冊)、奥には、シアタールーム、時系列に徳田虎雄の誕生から現在までの歩みを医療、政治、経営等各分野の功績を紹介する展示室がある。そして二階には経営、医療、政治、愛用品・家族等に関する展示コーナーと岬ヶ丘茶寮「夢の風」が設置されている。

館内で私は、古びた手帳の前で足を止めた。両開きの右上部の赤太線に「無から生じて無に帰する」と記された下部に「①気の使い方、②時間の使い方、③金の使い方」を波かっこで囲み、その右側に自分の為に使わない。人の為、ロマン、真実の為に使う『人生全て勝負の連続』と隙間なく書き付けてあった。古代中国、春秋戦国時代の楚の哲学者「老子」書籍第四十章に「天下萬物生於有、有生於無：天下の万物は有より生じ、有は無より生ず」がある。これは「無から有が生まれて、有から無に帰する」意でもあり、万物の価値観が相対的で不確かなものであるから無用なこだわりを捨てるのが肝要であると解釈もできる。この手帳から私は、泰然自若とした諸行無常の境地で、理念を追求する不退転位の徳田虎雄の姿勢が感じられた。

### 2 徳田虎雄の歩み

#### (1) 医師を目指して

徳田虎雄は昭和13年(1938)、2月兵庫県高砂市に父徳千代と母マツの間に6人兄弟の長男として誕生、二歳の頃に家族は徳之島の亀徳に引き上げてきた。小学校3年生(九歳)の頃、夜中に、三歳の弟がひどい下痢とおう吐を繰り返す急病になった。父親が砂糖の密貿易で検挙され拘留中であり、長男として夜の山道を裸足で駆けて医者にと土下座して往診を頼んだのであるが、応じてはくれなかった。昼過ぎに医者が到着した時点では、弟は既に息絶えていた。弟を背負って日頃から面倒を見てきた兄「徳田虎雄」の怒りと悲しみは察するに余りある。「きつといつか自分が医者になって人の命を救いたい」という一途の強い念が心中に深く刻まれたのに違いない。

妻秀子は昭和13年(1938)6月に大阪市旭区で徳之島出身の「満道重(みつみちしげ)」と母「カマ」の長女として誕生した。昭和21年(1946)10月に家族5名は広島からアメリカ軍政府統治下の徳之島に引き揚げた。両親同志の繋がりもあり、学年一級上の徳田虎雄とは幼馴染みの仲であった。昭和30年(1955)3月、徳之島高校二年生になった徳田虎雄は「ぼくは四月から大阪の今宮高校に転入学し、二年生からやり直して大阪大学医学部を受験することに決めた。阪大医学部に入るまでは徳之島に帰らないと、親父と死ぬか生きるかの約束をしたから、何が何でも受かってみせる。それまで待っていてくれなにか」と秀子の手を握り締めて別れを告げた。その後、二人は途切れながらも手紙でお互いに励まし労わり合って愛を紡いだ。

やがて秀子は昭和32年(1957)3月、徳之島高校を卒業後、鹿児島銀行徳之島支店に就職した。徳田虎雄は大阪で一日16時間という猛烈な受験勉強と二年間の苦学を経て、昭和34年(1959)4月、三度目の受験でついに阪大医学部に合格した。

島を出てから四年目の春、二十二歳の「徳田虎雄」は約束どおり恋人秀子の元に戻ってきた。そして「今度は夏休みに迎えに来る。僕がアルバイトをしてでも薬大に入れてやるから、目標をもって頑張れ。願いはきつと叶う」と愛を打ち明けた。夏が来て秀子は、2年間半勤めた鹿児島銀行を退職した。昭和34年(1959)8月に家族だけの簡素な結納を済ませて、二人は医師と薬剤師を目指して大阪へ船出した。そして大阪府箕面市で大家の2階に台所・トイレ共同の部屋を間借りして同居生活を始めた。やがて、秀子の1年間半の苦学が実を結び、昭和36年(1961)に二度目の試験で近畿大学薬学部合格した。そして徳田虎雄が大学四年の昭和37年(1962)10月に父親徳千代が高血圧の発作で病死した。徳田虎雄は「これ以上、母に島で農作業をさせてはいけない」と考え、一家は大阪で住むことに決めた。昭和38年(1963)3月に母親マツと弟たちが上阪し、八

尾市内に文化住宅を借りて家族全員で住んだ。徳田虎雄だけは経費節約の為、大学の寮生活を卒業まで続けた。この年に待望の長女徳美が誕生し、続いて昭和40年(1965)に長男哲も誕生した。母親秀子は出産と育児で休学・復学を繰り返しながらも義母マツの助けもあり、どうにか薬学の勉学を継続し、実に入学から6年目の昭和42年(1967)3月に近畿大学薬学部を卒業し、念願の国家試験(薬剤師)も合格した。

## (2) 病院建設へ

徳田虎雄は、昭和40年(1965)大阪大学医学部を卒業後、麻酔科専攻の外科医となり大学病院・公立病院に勤務し、急患対応等で年間約290件の手術を熟していた。昭和46年(1971)12月大阪府松原市の河内天美駅付近に、二人は手付金二百万円を借り集めて病院用地を確保した。次に土地代金二千万円融資の事業計画書を作って翌日から八尾市内の銀行回りを始めた。長女徳美と長男哲を留守番させて、妻秀子は乳飲み子の二男毅を背負い、次女美千代と三女真理、それに四女ゆかりを乗せた乳母車を押した。秀子は既に7番目の子供を妊娠していたが、子供をあやしながらも殆どの銀行支店を回った。やがて、T銀行と相談した結果、一千八百万円の融資を受けることができ、昭和46年(1971)12月20日に土地名義を徳田虎雄に変更した。ところが11月下旬頃に、T銀行から「先日の融資資金を至急全額返済願いたい」旨、連絡があった。正月明け早々から二人で藤井寺市内の銀行を回ったが、融資担当の意見は厳しく八方塞がりの状況であった。それでも第一勧業銀行藤井寺支店の支店長は、徳田虎雄の「事故死で一億七千七百万円の生命保険に入り、受取人は貴行にします」という決死の覚悟の話聞き、融資相談にのってくれた。徳田虎雄は、私利私欲をまじえず、真心をもって人を救いたいという誠意を見せた。そして妻秀子の緻密な事業計画書と夫婦愛も功を奏したのに違いない。二カ月後、徳田虎雄は借入金一千八百万円の肩代わりと病院建設費用一億六千五百万円融資の許可を受けた。お金の本質は信用と言われる。徳田虎雄の真心と誠意こそが生命保険担保に勝る信用になったものと考えられる。そして昭和48年(1973)1月に最初の徳田病院(現:松原徳洲会病院)を大阪府松原市に開設した。昭和50年(1975)1月に医療法人徳洲会を設立し「年中無休・24時間オープン、患者様からの贈り物は一切受けとらない、健康保険3割負担金も困っている人には猶予、生活資金の立て替え・供与」の運営方針の基、全国展開に乗り出した。

## (3) 医師会との闘争と国際展開

昭和53年(1978)12月、京都府宇治市の病院建設許可に伴い宇治市長以下4名、宇治久世医師会11名、徳田虎雄以下6名で「宇治医療懇談会」が開催された。地元医師会側:「あんた最終的に何をやりたいのや」、徳田側:「最終的には無医村をなくすことで、徳之島の医療をやりたい」、地元医師会側:「それなら、人の嫌がる場所に病院建てんと、徳之島に帰ったらええやないか。徳之島に帰りなさい。島へ帰って自分でやればいいじゃないか」、徳田側:「行ったこともなく、知りもしないで徳之島のことが言えるか」(山岡淳一郎(2017)神になりたかった男 徳田虎雄)と激しい応酬があった。徳田虎雄の前には、「医療権益を保持した地元医師会」や「病院建設申請書類受付段階の行政部門」、「政治的圧力団体等」の強力な壁が立ち上がった。

しかし、常に多くの市民の見方がついてきた。神奈川県茅ヶ崎市等でも類似の病院建設懸案が発生したが、多くの市民の署名運動や嘆願書もあり、最終的には建設許可が下りたのであった。これらの新規病院開設時は、開院1カ月前には病院長や婦長を確保し、運営準備計画に参画させる必要がある。病院建設に伴い「即戦力の病院長候補」の人材情報があれば、徳田虎雄は国内外を問わずどこへでも理事長自らが現地の居宅に出向いて、自分自身の生き様とその医療改革の信念を相手に直接語った。次に三顧の礼を尽くして自宅に招待して、家族総出で丁重に出迎えて、妻秀子の前で相手の意向を確認するとともに自己の熱き想いを語った。そして着任した医師や看護婦には機会あるごとに直接『生命だけは平等だ』の理念・哲学を説くとともに、各病院の朝礼時に、全職員に病院運営方針を唱和させて、その理念を普及・浸透させていった。

徳洲会グループは海外でも平成18年(2006)11月にブルガリア、ソフィア市に1016床の東欧最大かつ最新鋭の総合病院「徳洲会ソフィア病院」を開院し、平成24年(2012)2月にはブラジルにも心臓外科名医ランダスバチスタ院長の「徳田虎雄心臓病院」を開院した。他方、医療資源の乏しい地域では高血圧や糖尿病等から急性腎不全を発病し、死亡に至る事例が多々あったことから2005年以降、アフリカやアジア諸国の国際医療協力活動にも積極的に取り組んできた。2007年1月末までにルワンダ、ギニア等のアフリカ14カ国、ネパール、インドネシアのアジア諸国等を加えて総計22カ国に合計327台の人工透析機器を寄贈した。そして現地の医療スタッフを国内に研修生として受け入れ技術指導も行ってきた。このように徳洲会グループは、『生命だけは平等だ』の理念・哲学を掲げ、患者優先の年中無休・24時間オープンの病院運営を行うとともに国内外で医療支援に取り組んできた。その結果、平成23年(2011)時点で病院数67、数多くの診療所や福祉施設を整備し、従業員数2万5690人、医業収益3532億円の日本最大の病院グループへと躍進したのである。

## (4) 政治的手段へ

昭和57年(1982)後半、徳洲会グループは更なる全国展開を模索していた。しかし、既得権益を保持した医師会等や政治分野の団体圧力で展開用地及び医療人材の確保、更には銀行取り引き業務に至るまで非常に困難を極めた。徳田虎雄は「鹿児島に病院を造るためにはどうしても政治的手段が必要になってくる。政治力を持たないと、医療改革はできない。選挙に打って出るしかない。いいかまた、苦勞をかけることになるが頼む。奄美から出馬しようと思う」と吐露した。これに妻秀子は「奄美から出馬するとなると大阪にいるのは年の半分、いや何分の一になるのだろう。私や子供のことはどうするの」と問い返した。これに徳田虎雄は「何とかせよ。君は、ぼくと結婚したのだからぼくについて行くのが1番の任務じゃないのか」と畳みかけた。妻秀子は「いいわ、やってください。地獄のそこまでもついて行きますよ」と頷いて答えた。徳田虎雄の祖父「徳

能富（とくのぶ）」は、臨終に際し「私の降らす露で、おまえたちが塩一升を使うようにしてやる」と遺言した。これは「嫁マツや子供達への感謝と、子孫の繁栄を願い、夢を持って皆で気張れよ」という徳田家に対する切実な想いがあった。妻秀子は、この義祖父の遺言を胸の奥に秘めて、七人の子供の母親として夫徳田虎雄に糟糠の妻の如く尽くしたのである。

昭和58年（1983）12月に第37回衆議院議員総選挙に徳田虎雄は、奄美群島区から出馬したが、僅差で落選した。そのときに「みんな聞いてくれ、パパは再度挑戦したいと思う」と家族に打ち明けた。この頃、長男哲と長女徳美は大学で家を離れていたが、他の兄弟姉妹は、次女美千代が高校、三女真理、四女ゆかり、二男毅が中学で、五女真紀子は小学で皆母親とともに大阪暮らしであった。徳洲会理事長として激務の父親が選挙活動を継続することは、子供たちにとってもまた試練の道であったのである。夫の政界挑戦二度目に際し、妻秀子は奄美群島地盤強化の難局を乗り切る為、義母マツや二男毅と一緒に名瀬市（現在の奄美市）に移り住む背水の陣を敷いた。そして妻秀子は、保岡派の岩盤の強い奄美大島の各集落を一軒、一軒訪問し夫の理念を伝えた。この間も徳田虎雄は病院開設等で国内外を東奔西走の身で、心折れそうなこともあったが、妻秀子は「苦しいことも、言いたいことも、不満なことも、腹の立つことも、泣きたいこともあるだろう」と山本五十六の「男の修業」を見せて夫の士気を鼓舞したのであった。昭和61年（1986）7月の第38回衆議院議員総選挙へ二度目の挑戦をしたがまた落選した。しかし、この二度の落選にも徳田虎雄の自己実現欲求の衰えるところはなかった。そして、昭和61年（1986）10月には故郷徳之島に念願の「徳之島徳洲会病院」を開設した。実にこの年の病院開設は、北海道、千葉、名古屋、長崎等計8箇所へ渡り、更に昭和63年（1988）4月には沖縄県に「中部徳洲会病院」も開院した。これだけ短期間での大事業の貫徹は、経営理念に基づく将来像（長期経営戦略の経営ビジョン）を持ち、大きな人間的信頼を勝ち得ていたに他ならない。接客に際し、目配り（相手の様子を確認）と心配り（相手の立場での配慮）の上で、徳田虎雄は一介の医者として患者を診るかのように心配り（相手への思いやり）をもって接してきたのである。これらの病院の建設資金や医療人材の確保そして、建設用地や設備資材等の調達関連の交渉で徳田虎雄は全国を縦横無尽に隈なく駆けめぐった。そこに講演会等も入れ込むと、その分刻みの行動スケジュールであり、即断、即決、即実行の徳田虎雄の過密日程取り調整に、周囲のスタッフは日々追われる激務であったに違いない。このように苦難の怒涛を乗り越えてきた徳田虎雄は、平成2年（1990）2月18日の第39回衆議院議員総選挙に立候補し、政界進出を目指して苦節8年、三度目の正直で、ついに当選を果たした。それ以後は沖永良部、喜界、奄美大島、屋久島の離島に病院を開設するとともに、国内外の病院開設や医療支援活動等に尽力した。また、政治家としても衆議院議員を4期務めて、沖縄開発政務次官、日本体操協会会長、アジア体操連盟会長、自由連合代表等を歴任し、平成17年（2005）に政界を引退した。「徳田虎雄（2007）生きる力」には「私が奄美各島に病院を建てるといったときに、最初はみんなが「大ボラ吹き」と笑っていた。でも実際に病院を建てました。思えば私の人生は全て、非常識で不可能と思えることが目標だったから実現できたのです。その大きすぎる目標に向かって、努力、努力、また努力、無理な努力、無駄な努力、無茶苦茶な努力でもしぶとく努力し続ければ、必ず目の前に道が開け、不可能が可能になってきたのです」と胸中の喜びを語っている。

#### (5) 理事長退任と継承

「総務省から平成24年（2012）12月の衆議院議員総選挙で鹿児島2区の徳田陣営の運動員に関して、公職選挙法違反の可能性のある疑惑が掛かっていることが、平成25年（2013）9月16日に明らかになった」と翌日のNHK等で報道された。これに伴い、徳田虎雄は、平成25年（2013）10月20日、医療法人徳洲会及び特定医療法人沖縄徳洲会の理事長職から退任するとともに、社会医療法人社団木下会、医療法人静仁会、埼玉医療生活協同組合、札幌医療生活協同組合の理事長職からも退くことを明らかにした。

創設者徳田虎雄の『生命だけは平等だ』の理念・哲学と「全国の地域を網羅した救急、外来、入院から高齢者介護に至る医療ネットワークシステム」は、新体制となった「徳洲会グループ」にも継承された。平成30年（2018）11月14日現在、徳洲会グループホームページには【徳洲会グループは「生命だけは平等だ」の理念の下、「いつでも、どこでも、誰でもが最善の医療を受けられる社会」を目指しています】が「グループのご紹介」欄に記載されている。また「グループ施設のご紹介」を開くと全国地図上に「病院71施設の他、数多くの診療所・クリニック、介護・福祉関連施設等」が展開されている。これらの各地域の医療情報や救急のネットワークシステムが人体の器官のように有機的一体として機能し、日々多くの人命を救い続けている。更に「グループの取り組み」の「国際医療協力プロジェクト」欄にはアジア12カ国、アフリカ18カ国、欧州1カ国、中南米諸国4カ国の国際的医療活動状況が掲載されている。これらのネット情報は英語や中国語での利用も可能である。また、徳州新聞電子版で医療従事者等のコメント等も閲覧できる。

#### (6) 病気との闘いと徳田虎雄の歩み

医師として、徳洲会グループ理事長、政治家として駆け昇ってきた徳田虎雄は、身体的に壮健な状態であったというわけではない。平成14年（2002）に、難病ALS「Amyotrophic lateral sclerosis：筋萎縮性側索硬化症」と診断された。その後も平成16年（2004）2月に「胃瘻造設術」、「人工呼吸器の装着」、平成17年（2005）2月に肺炎合併症で気管切開術、そして平成18年（2006）11月、咽頭全気管術等一連の困難な長時間の手術を受けながらもその驚異的な体力と精神力で病気を乗り越えてきた。徳田虎雄は、平成18年（2006）11月29日の日本ALS協会設立20周年記念式典で、闘病中であることを公表した。その代読メッセージで「これからが人生の勝負です」と語り、日本国内及び世界中に病院を設立する計画を明らかにした。「徳田虎雄（2007）生きる力」の中で人生は苦しいことを体験しただけ、心が成長を遂げ、不思議と人生そのものは豊かになって行

くものです。こう考えると神様は【もっともっとあなたは、苦勞しながら心の修業を積みなさい。そうすればもっともっと魂のレベルが上がり本物の幸せに近づけますよ】そんなことを私に伝えたくて、大きな試練を与えたのかもしれませんが」と述懐している。現在、徳田虎雄は湘南鎌倉病院で療養に専念している。身体は全身不随の状況にはあるものの最新のコミュニケーションツール（プラスチック製文字盤）を活用して、家族との意思の疎通を図れる状況にある。自分自身がALSの難病の状態にありながらも日々『生命だけは平等だ』の理念実現の為に「何が何でも人類のために、故郷のために、いつわりのない人生を生きたい」それが徳田虎雄の現在の心持ちであるものと推察致します。

近年、徳田虎雄に関する文献も多数出版され、各界の有識者や各分野の専門家がその感動を伝えたり、いろいろな批評が行われたりしている。いずれにしても国内外の幾多の医師や看護婦、職員及び講演会参加者並びに読者等が徳田虎雄から有形無形の薫陶を受けてきた。ネット等や書籍のメディアを通して、その多くの賛同者が全国津々浦々、世界各国の医療・介護福祉業界、あるいは政界や経済界等様々な分野で社会貢献活動に取り組んでいることを我々は見聞することができる。徳田虎雄はその著書で「我々は世界中の人々に慈愛を示し、奉仕すべきです。『生命だけは平等だ』の理念で宗教、人種に関係なく世界に医療で貢献することが世界平和につながると信じている」とし、更に「夢と希望とロマンを堅持し、99%不可能であっても、1%の可能性があれば最後まで頑張る執念と、その困難に立ち向かって行く闘志が人生で一番大切である」と説いている。その信念の基、艱難辛苦な局面にあってもその目的完遂を目指して無理、無駄、無茶苦茶な努力をいとわず常に自ら先頭に立って奮闘してきた。それも自己の利益よりも、他者の利益を優先する考え方で、心の奥にロマン（夢や冒険等への強いあこがれ）を堅持し、愛する人たちや弱者の為に自分自身の資質能力、精神力、体力の極限を超えて挑んできたのである。上述してきたように、徳田虎雄は『生命だけは平等だ』という人類の普遍的価値ともいえるべき崇高な理念を現実化する為に、「気：相手への思いやり」と「時間：流れのある一瞬（今の瞬間）」を重視し、そして「金：信用（真心と誠意）」を最大限効果的に運用し活かしてきたものとする。記念館の手帳は、「無は単にないという意味ではなくて、あらゆる可能性を含み持つ状態であり、あなたが何かを思い立って行動したら、そこから「有」が始まる。何だかんだというこだわりを捨てて「夢を持ち、やる気を出して今から一歩踏み出せ」と訪問者を諭しているかのように見える。

### 3 ギニア共和国大使館サンクン・シラ大使の徳之島訪問

平成26年（2014）10月19日に「伊仙町ほーらい館」で「ギニア共和国大使館 徳之島三町友好協定調印式」が行われた。その際に「特命全権大使サンクン・シラ閣下（His Excellency Mr. Senkoun SYLLA）」はギニアの日本の恩人として、お二方（国連加盟国承認時の最初に賛成した松浦大使とギニアの国土地図を完成させた本島健三さん）に言及した後、次のように述べられた。

「3人目の恩人は、徳之島に生まれた徳田虎雄先生です。ギニア経済が成長するとともに、透析を必要とする患者も増加した。徳田虎雄先生が設立した医療法人徳洲会がギニアで一番大きな透析センターを完成させた。湘南徳洲会病院ではギニアの医療スタッフ4人が透析技術研修を受けた。このスタッフがギニアで透析技術を広めて、今日多くのギニア国民の命を救い続けている。こうした徳洲会の医療活動は、ギニアだけでなく、アフリカ各国で行われている。本日、多くのギニア国民の命を救った徳田虎雄先生の故郷徳之島に、私は来ることができ感動している。この友好協定を契機にギニア大使館が窓口になって、ギニアやアフリカ諸国との交流を深めて特に日本と各国の子供たちの教育に貢献できるものになればと願い、友好協定に調印致します。」と述べて大喝采を受けた。

#### 結び

翌日、私は同窓生の車で記念館を再度訪ね、バルコニーから亀徳の港と紺碧の大海原を眺めた。今から63年前の春、徳田虎雄はその信念以外に何ら確証のない夢を抱き、この港から銅鑼の響く中、家族や恋人と別れて独りで船出した。時は経ち、医師となって、『生命だけは平等だ』の理念・哲学を創造し、国内外に病院・介護福祉施設等を開設してきた。そして幾多の医療従事者等を育み、世界中の人達の生命を救い続けている。この白亜の殿堂にはその軌跡と確かな証しがある。是非、皆様にこの記念館を訪問して頂き、徳田虎雄の軌跡を辿って頂きたいと思う。ここに徳田虎雄の一日も早い御快復を心より願うとともに、幾多の薫陶を皆様のネットワークで情報共有を図り、この故郷や南西諸島、国内外の若人の夢実現に資するように願うものである。小生も徳高後輩として『生命だけは平等だ』の理念・哲学の伝搬を微力ながら支援をしていく所存である。この記念館が、郷土の歴史、文化の研究活動拠点としても更に発展していくことを祈る。最後に「一般財団法人徳田虎雄顕彰記念財団」関係者の皆様には心より感謝申し上げる次第です。

#### 参考文献

徳田虎雄（2007）『生命だけは平等だ』PHP 研究所

徳田虎雄（2007）「生きる力」PHP 研究所

鉢屋邦夫（2008）「老子」岩波書店

出水沢藍子（2011）「徳田秀子物語 塩一升の女」出版企画あさんてきーな

山岡淳一郎（2017）「神になりたかった男 徳田虎雄」平凡社

大平 誠（2018）「徳田虎雄病院王外伝」PHP 研究所





徳田虎雄顕彰記念財団代表理事・越澤靖久氏挨拶



記念館全景

徳田虎雄記念館の案内  
 徳田虎雄顕彰記念館 〒891-7102  
 鹿児島県徳之島町亀徳 2691  
 TEL : 0997 - 82 - 1700 、 FAX : 0997 - 82 - 0071  
 一般財団法人 徳田虎雄顕彰記念財団  
 〒891-0122 鹿児島市南栄 5 丁目 10-4  
 TEL : 099 - 260 - 6200 、 FAX : 099 - 260 - 0409



国際法務  
川畑行政書士事務所  
ILAKO

行政書士 川畑進  
ADMINISTRATIVE SCRIVENER  
SUSUMU KAWABATA

〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-16-20 めかりやビル6階 610  
 TEL 03-6871-9548 個人携帯 080-5514-0727 (Mobile)  
 Nukariya bldg. 6F #610, 1-16-20 Minami-Ikebukuro,  
 Toshima-ku, Tokyo 171-0022 JAPAN  
 E-mail: ilask01@yahoo.co.jp





- 各種在留資格の認定、変更、更新等の許可申請 : Certificate of eligibility status/Change Status/Extension period of stay application
- 技術・人文知識・国際業務の申請 : Visa Application for Engineer Specialist in Humanities and International Services
- 技能ビザの申請 : Application for the Skilled worker Visa
- 経営・管理 : Business Manager
- 永住許可申請 : Permanent residence permit application
- 短期滞在 : Short stay
- 帰化申請 : Naturalization application

オーシャンビューで風光明媚なローケーション。  
 ホテル&地場産食材活用レストラン  
 (空港・港からの送迎あり)

遊学リゾート『きむきゅら (心美ら)』

代表 時 亮

〒891-7115 大島郡徳之島町下久志 1132-1  
 TEL & FAX : 0997-84-1186

生命だけは平等だ  
徳田虎雄

徳田虎雄は小学校3年の時、急病の弟が貧乏ゆえに適切な治療を受けられず、その生命を助けられなかったことに大きな衝撃を受け、人々が社会的地位や経済的な格差により医療の質が影響されてはならないと、誰もが最善の医療を受けられる世界を目指して医療改革にその半生を捧げてきました。大阪大学医学部を卒業。その後医師として「生命だけは平等だ」の理念を追求すべく、医療法人徳洲会を設立しました。

「徳田虎雄」とは

昭和13年(1938)生まれ。  
鹿児島県徳島で育つ。大阪大学医学部を卒業後昭和50年(1975)医療法人徳洲会を設立。全国各地に病院施設を設立展開する傍ら、「生命だけは平等だ」の理念の追求には政治力の必要性を感じ、衆議院議員を立候補。平成7年(1995年)沖縄県知事選挙に立候補。また平成18年(1996年)日本医師協会会長に就任。「24時間、365日オープン」の病院体制や救急医療、産婦人科医療の革新を実現しつつ、全国70病院、年間4,200施行、処置者3万人と1つの国内最大の病院グループに育て上げました。しかし平成14年(2002年)高齢者福祉政策強化(LIS)の断行を受け治療中、平成17年(2005年)徳島県より名誉市民の称号を授けられる。その後、大塚町、知名町、伊弉町、中津町、徳島市、徳島県、鹿児島県などから名誉市民の称号を授けられる。



開館時間 展示観覧 10:00~17:00  
休館日 火曜日(火曜が祝日の場合は翌日)  
観覧料 大人(高校生以上) 500円  
小人(小学生・中学生) 300円  
【団体割引】 大人 400円/小人 200円 ※20名以上  
【年間パスポート】 大人 3,000円/小人 1,500円  
※障害者・学校行事で観覧の小中学生は、上記の半額になります。  
併設 喫茶店、図書室、イベントホール  
アクセス レンタカー/徳之島空港から記念館まで(約40分)  
路線バス/徳之島空港から亀徳港へ(約45分)  
亀徳港からタクシーで記念館まで(約5分)



徳田虎雄顕彰記念館  
〒891-7102 鹿児島県大島郡徳之島町亀徳2691番地  
Tel 0997-82-1700 Fax 0997-82-0071  
一般財団法人 徳田虎雄顕彰記念財団  
〒891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄5丁目10番4号  
Tel 099-260-6200 Fax 099-260-0409

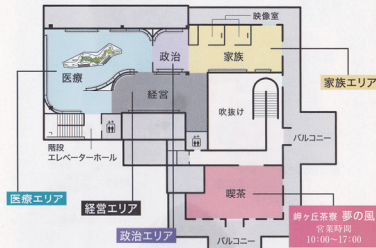


徳田虎雄顕彰記念館  
Torao Tokuda Memorial Hall



1F 徳田虎雄の半生の全貌

へき地・離島出身というハンデを負いつつ、徳田虎雄がなぜ空前の医療改革を目指したのか、なぜ一代で国内最大の医療・福祉グループの創設が可能だったのか、前人未到の行動力はどのようなものだったのか。徳田虎雄関係の著作物や描いた図書館や関係者・著名人の映像や徳田虎雄の実績の記録展示により、その足跡の全貌をご覧ください。



2F 医療革命・政治の功績

徳田虎雄には複数の顔がある。「生命だけは平等だ」の理念の下、国内はもちろん、世界中の指導者と医療改革を連携した医療者としての顔。合理的な病院経営者としての顔。そして国会議員としての政治家の顔。それぞれの側面から詳細を展示、その功績を考察します。



無料エリア

図覧・観覧無料

徳田虎雄顕彰記念館内には、「イベントホール」と「図書室」を一般に公開しています。(図覧・観覧無料)

1F イベントホール



コンサートや展示会など誰でも自由に利用できる広いスペースです。(約80㎡)

1F 図書室



ゆっくと流れる時間の中で読書をお楽しみいただけます。(約7,000冊)

2F 岬ヶ丘茶寮 夢の風(喫茶・軽食)



広々とした開放的な部屋で美しい海を見ながらコーヒーやランチを楽しめます。 営業時間/10:00~17:00



◇ わが心のうた ◇

われもまた靈魂ひとついつの日ぞ奄美の空翔ぶ星の一閃

徳山 高明

徳山高明先生は2,3年前から腎臓病を病み、週3回の透析治療を仙台市内の病院で受けながらその間、数回の手術に耐えて生来の強靱な生命力と気概によってその都度克服し復帰間近かと待望されていましたが、昨年6月20日に再々入院し、翌日の21日に帰らぬ人となりました。

先生の魂は永年住み慣れた北の仙台から遠く離れた南の故郷徳之島へ戻って行きました。

冒頭に掲出した詠草は、平成29年の東北アララギ会「群山」の編集人として新年会で公表されたもので恰も「辞世の句」を先取りして予告されたような感じが否めません。

徳山先生は、奄美出身の碩学、昇曙夢氏や沖縄出身の伊波普猷氏、更には奄美にゆかりの深い小説家、島尾敏雄氏等の著作に若い時から親しみ己が何者であるかを十二分に考える事が出来たことは幸いであったと自著の第二歌集「ヤポネシア」のあとがきで述べられています。

ところで、平成30年6月20日は、先生の1回忌の命日に当たり、この機会を捉えて「群山」の皆川二郎代表一行8名は梅雨の最中に徳之島を訪問、念願の墓参りを果たし墓前に近況報告を行いました。

この辺で、徳山先生の来歴や「うた」の足跡を辿って在りし日の姿を偲ぶことにしたいと思います。

① みづからを日本と分かつ意識たて方言忘れず島人の裔

先生は、昭和15年1月12日徳之島の犬田布に生まれ、縁あって仙台の東北大学教育学部に学び、卒業後は仙台市内の高等学校教師となり、国語科の練達の教師として活躍する一方、昭和38年6月、東北アララギ会「群山」(創刊 扇畑 忠雄)に入会しました。しかし、入会后先生に期する所があつて壮年に相当する期間、作歌活動を中断した時期がありました。

その後、改元を機に平成元年4月から作歌活動を再開し、創刊者扇畑忠雄先生の指導の下で「群山」編集部の中心的な役割を担い、企画編集及び発行に専念して来ました。その体制は平成17年7月まで続き、その後扇畑創刊者の逝去後は高弟の徳山先生が引き継ぐことになりました。

従って、先生はおよそ12年の長期にわたり編集人としての重責を背負うことになり、その間の心身の労苦と負担は筆舌に尽くせぬものがあつたと思われます。

徳山先生は、南国徳之島の出身ですから北国仙台に永く住みながらも、たえず奄美への郷愁とそれへの回帰との狭間に心を漂わせていたであらう。その例証として、次の3首を挙げて見たいと思います。

② みちのくに果てなむ命かおそらくは隠れんぼに似て潜む一生か 『ヤポネシア』

③ 遠き古里奄美の島に家を守り農を継ぐべき任は果たさず 『ヤポネシア』

④ 天翔けり心はたちまち古里の小原の海の岸壁に立つ (平成27年11月歌会)

先生のともすると屈折した気持ちは、愛犬に向かう時は解き放たれて、犬と人間との一体感が暖かく捉えられていて読者の共感を呼ぶように思われます。

⑤ 犬ながら戸惑へるのか面を伏す二週間ぶりに相見るときに 『道の島々』

⑥ 隠沼へここに分かる径三すじ左を選ぶ犬に従ふ 『道の島々』

⑦ かへりみて言葉短し大方は命令形にて犬に従ふ 大岡信選 『折々のうた』

⑧ 首目で触れた「隠り沼」は、仙台に於ける先生の仮の原郷かと思わせる場所でした。

⑦ 首目は、平成3年に朝日紙一面に掲載された詩人大岡信氏選の連載「折々のうた」で採られた秀歌でその選評は次の通りであります。

「『ヤポネシア』（平成7年所収）。犬の歌の多さに自ら「呆れ」ているほどの歌人の、犬の歌一首。人間と犬との付き合い方の奇妙さを反省し、人間を批評している。たしかに人は、犬を連れて歩く時、大方は「命令形」で犬に物を云う。

『言葉短し』である。作者は奄美の徳之島出身で、今は仙台に住む。おのずと『日本』に対しても批評的姿勢を保っていて、それがこのような一首にもおのずと現れ出る。」

この様にして、徳山先生はNHK文化センター講師や宮城学院女子大学生涯学習センター講師等の要職を併任しながら78歳の生涯を終えました。惜しみて余りあるものがあります。

最後に筆者の拙い歌を記して本稿を閉じることになります。

〈 群山の多士<sup>ひき</sup>濟濟のもののふを率ひて幾年<sup>ひき</sup>労苦俣<sup>ひき</sup>べり 〉

〈 みづからを中途半端<sup>りゅうぼう</sup>の流氓<sup>うべな</sup>と 諾<sup>ゆ</sup>ひて逝<sup>ゆ</sup>く高明先生は 〉

群山同人 徳之島高校35年卒

## 《 禍転じて福となす 》

伊仙町伊仙出身群馬県在住  
「夢」振 正会員 吉見 功

我家には手乗り文鳥が一羽いる。家の中で飼っているのでも時折、籠の外へ出すと喜んで飛び回る。心なごむ。普段は気にも留めないことだが、ペットの小鳥が籠の中で羽繕いをしている最中に間違っても転げ落ちたりしない。常にバランスを保っている。

本論に入ります。先だって、立ち上がると、思いがけず、ふらついてしまい、予期せぬ出来事に驚いた。間もなくして分かったことは長年腰に巻いていたコルセットを外したことだった。13年前、脊椎間狭窄症で腰の手術をした。しかも1度ならず同じ箇所を2年連続で2度も。退職後のことだから出来たことだ。2度目のお医者さんは術後「今度こそ注意しないとひどいことになりますよ」と私にくぎを刺した。寝たきりになったりするのを避けたいと、ずーとコルセットをしたまま今日に至った。体を動かさない訳にもいかないので、お医者さんの許可を頂いて好きなゴルフも続けた。家庭菜園も楽しんだ。

ところが、この夏は猛暑が続いたので、思い切って外してみた。その結果、上に述べたような“よろめく”という思わぬ台風に襲われた。すぎさま、医者に相談した。“腸腰筋”という体内筋があって、重力から体を支える重要な働きをする筋肉でそれが弱ると、このような症状になるとのこと。スポーツ選手などには極めて重要な筋肉だそうだ。長期間のコルセット着用のツケが回って来たことを知った。体の中心が定まらずバランスが保てないのは“不安”そのものだった。小鳥のようにはいかない。医者は危険だから散歩はしばらく中止して、健康器具を買うように勧めた。早速購入して、以降毎日ペダルを踏んでいる。(エアロバイク) 腹筋の強化に繋がることを期待している。わずかながら徐々に効果が現れて来ている。

【 この話とは別に鍼灸治療について 】

ふと思いついて鍼灸治療を訪ねた。先生に現在の「ふらつき」状態を説明した。早速治療を開始して頂いた。先生のお歳は88歳、超ベテランだ。早速、足や腰はもちろん頭のテッペンまで指先でツボをさぐり当て鍼とお灸の治療が始まった。驚いたことに、「ふらつき」が徐々に収まって来た。東洋医学には即効性がある。医院を出る時点では完全ではないものの歩行が出来ようになった。約1時間の治療でのことだ。その後8回通院した。ほぼ正常に歩行が出来るまでに回復した。一区切りで、今は様子を見ている。ただ、その後幾人かの話によると、全ての人に、この成功例が当てはまることではないとも云う

たまたま幸運な患者の人だったかもしれない。それにしても、健康器具、鍼灸治療と、今後の貴重な経験になった。高校時代の町田君に是非と勧められて、拙い体験談を書きました。

《 と一くのしまかよ ふゆしらず やれふゆしらず 》

遠からず徳之島が世界自然遺産の仲間入りをするといいですね！

平成30年10月

# 元気な73歳は 終戦の年に生まれた仲間！

NPO 法人徳之島「夢」振興会議 副理事長  
河島 良政（東京都在住 徳之島町出身）

戦争末期で親たちも子作りどころではなかったのでしょうか、昭和20年生まれの同窓生は人口構成のグラフを見ると極端なボトムです。

同期が少ないせいもあって、仲間の「絆」は飛びぬけてかたいものがあります。

再来年はふるさと徳之島で喜寿の全国同窓会を予定しています。そこで、正月の早咲きの緋寒桜の下で三味線でも弾きながら、とんこつ料理売りを肴に焼酎で祝うのが夢です。

そこで、今年は10年物の成木を5本追加して植樹してみました。

お正月が来るたびに島に帰るのが楽しみになりました。



昭和20年生花見をしながらの全国同窓会に備え緋寒桜成木5本追加で植樹(徳之島町)

NPO法人徳之島「夢」振興会議 副理事長  
株式会社 東 旗

代表取締役 **河島 良政**

厳選食材のお取り寄せ ネットショップ

**かわしま屋**

〒208-0034 武蔵村山市残堀 4-17-8  
TEL042-560-6089 FAX042-531-5224  
ホームページ [kawashimaya-ya.jp/](http://kawashimaya-ya.jp/)

税理相談・税務代理・税務書類作成

税 理 士

**矢 島 和 義 事 務 所**

〒160-0022  
東京都新宿区新宿 2-8-1  
セブンビル 205 号室  
TEL : 03 (3341) 1121 FAX : 03 (3341) 5116

## ～「夢」振副理事長職を後輩へバトンタッチ～

天城町 浅間 在住

「夢」振 正会員 田川 忠良(前副理事長)

「年年歳歳花相似たり 歳歳年々人同じからず」唐の代の詩の一節。時が流れても(花＝自然)の姿は変わらないが人は容貌を変え、いずれ不在となる。と云う意味だそうです。(某紙のコラムより)。

島の野山は、今年もサキシマ芙蓉の白や淡いピンクの花を咲かせ季節の移ろいを感じさせてくれます。10月旬と下旬に小中学校と高校の全国同窓会が奄美市であり、大島本島と加計呂麻島を散策してきました。視点はやっぱり、花と植栽にいきますが、手つかずの自然、ありのままの佇まいに癒されると、同行した東京からの客が云っていました。同感です。一方、16年前に大和村の或る集落で覚えた感動が忘れられず再び訪ねてみて唖然とした。そこは、渚と砂浜とアダンが民家と繋がり昔の面影を残し、郷愁を覚えたのですが、今は、コンクリートの護岸で仕切られていた。残念！・・・でも、小綺麗なトイレと駐車場が整備されていて感心した。

観光の拠点(パンフレットに書かれている所)については、周辺の整備が大事だと思った。笠利町の「あやまる岬」は気持ちよかった。徳之島はどうか？

### 「夢」振が今後取り組むべき課題

平成30年10月21日「夢」振の徳之島での懇談会においての成果は如何だったでしょうか。徳之島の花木植栽・環境整備を今後どう進めるか(リーフレットの1.～5.)については、県の土木事務所・3町の行政・観光連盟・地元民間人等によるシンポジウムの開催が必要ではないか？1時間程度の懇談会で済む話ではないと考えます。

個人的に、かねてより思う事ですが、〇〇記念植樹と銘打って行われた植樹の、その後がどうなっているかを、是非検証願いたい。折角のご芳志が無駄にならない為にも。無駄にした責任の一端は地元であり、他端は安易に行った植樹ではないか？とも考えます。各学校の入学・卒業記念植樹も検証願いたい。学校への苗木の配布については、需要と供給にミスマッチがあると感じています。学校における環境美化は情操教育にとっても重要でどの学校も競って行われていますが、計画にも無いものを一歩的に貰うと困惑します。金一封でも良いのではと思ったりもします。

10年余りのお付き合いでしたが、・・・歳歳年々人同じからずで、体力・気力共に衰えを感じております。この度、「夢」振を卒業させて頂きます。これから終活でも始めるか！ NPO 法人徳之島「夢」振興会議の更なるご発展を祈念しつつ・・・。

## ～ 伊仙町 町花「ハイビスカス」に集落女性陣で取り組む ～

伊仙町 伊仙 在住

「夢」振 正会員 平 美香子

この度の台風24号では奄美群島全域に多大な被害があり、伊仙町でも屋根やベランダが吹き飛ばされ、農家の基幹作物であるサトウキビも多大な被害がありました。心よりお見舞い申し上げます。未だに日常生活を取り戻せていない皆様も多数いらっしゃるかと存じます。私もその中の一人ですが、本当に怖い台風でした。70年余、徳之島で生活していて、こんなに恐ろしい夜はありませんでした。一日でも早い復旧と心穏やかな時間が戻って来る事を願っています。

私も「夢」振興会の一員として、早十年余りになりますが、最初の三、四年はハイビスカスの挿し木をしたり、入学式にハイビスカスの苗木を届けたり、その他にも色々なイベント等にも参加させて頂いていました。又、お蔭で私は今、色々な形と色のハイビスカスを集めて楽しんでおります。赤・白・黄色・オレンジ・ピンク・紫・等々色も形も様々です。それにハイビスカスは伊仙町の「町花」でもあります。

この「町花」を県道沿いの花園にと思い集落の女性の皆さんに協力して頂きハイビスカスを植えてみましたが、今回の台風で葉は塩もみ状態で見るとも無惨、枯れたような感じでしたが、十日位経った頃、その中の一本だけが小さな新芽を出し「私、元気よ」と云う表情に植物のたくましさを感じています。まだまだ小さい芽を出したばかりですが、近いうちに伊仙町役場近くの花園にハイビスカスの花が咲き乱れる日を夢見つつ楽しみたいと思います。

徳之島を遠く離れて都会で島を懐かしく思いをはせている皆さんの為にも、島に残っている私達は、私達に出来る事を苦にならない程度に楽しみながら活動して行きます。

この様な素敵な活動を素晴らしい仲間たちと共に出来る事も「夢」振興会に入会し、皆さんと共に活動したお陰だと感謝しております。ありがとうございます。

## 「ふるさと徳之島を外から見たら」

福井 久代 (福井 巖氏夫人)

(福井 巖 正会員 神奈川県在住 徳之島町徳和瀬出身)

徳之島で生まれなかった人の目に、島はどう映るだろうか。下記は、ある団体で「ふるさと」についての記事募集があったときの家内の感想文(平成2年記述)です。戦後満州からの引き揚げで、あやうく、残留孤児になる体験をしていますが、ふるさとを思うのには、同根の感情があるようです；

私の「ふるさと感」は、懐かしく、温かく、生命の洗濯が出来るところですが、やむなくふるさとを捨てた人もいるかと思えます。幸いなことに、主人のふるさと徳之島は、主人が生まれ育ち今でも兄夫婦がいて、親類縁者が沢山いて、いつでも温かく迎えてくれる所です。私のふるすとは、6歳の時に満州から引き揚げて来て6年間住んだ大分の母の実家であり、今でも叔父がいて従兄弟達がいて、こちらも又いつでも温かく迎えてくれる所です。ところが、結婚して13年、娘たちが小6・3・1年を終えて主人の意向で、11年シカゴに住みました。多分、一番多感な小、中、高校時代をシカゴで過ごした娘達にとって、シカゴがふるさとのはずですが、今は、親も親戚も住んでなく、たまに訪れたとき友人宅に泊めてもらって、恩師を訪ね、住んでいた家を見て来たというだけの所になっています。高校を終えた娘たちを大学まで米国でとすると、日本人としてのアイデンティティーもなくなると思い帰国させました。主人とダラスに来て15年という生活をしている私達には、娘達に故郷を残してやれなかったとの思いがありました。しかし、これは、杞憂に過ぎなかったことが分かりました。平成2年に、義父の歳の祝があり、我々と母と三人の娘夫婦家族で徳之島に帰りました。実家に着いて、神棚、仏壇に手を合わせて帰宅の報告をした後、ムイシュ(盛り塩)といって、昔は義母が、今は兄嫁が、山盛りの塩と昆布とするめを盛ったお盆を神棚からおろし、お神酒を頂き、“昆布とするめ”に塩をつけて、一人一人手にのせてくれて、これを頂きます。(お帰りなさい)という意味ですが、島を出る時も同じムイシュをして、無事に旅が出来るようにと清めてもらいます。明治36年生れの義父が勉学の為に鹿児島に渡った頃は、水杯だったそうです。

徳之島は“神々が宿る島”と言われていますが、神と自然と人間が一体となって作り出したような独特の文化があります。ワァーと地面から湧いてきて大きく包んでくれるような温かさがあり、島の人みんなが親戚のような親しみがあって、真に心も体もリラックス出来る所なのです。まばゆい太陽に抜けるような青空、さんご礁のきれいな海、年中基幹作物のサトウキビの緑の葉がゆれる畑、ハイビスカスやブーゲンビリアにいたるまで、方々に咲いていて歓迎してくれます。

蘇鉄ジャングルの近くでの出来事、キレイな海、その他「わあ、熟れたパイナップルがなっている！」と大声をあげて眺めていると、「食べたいかね」と見知らぬお婆さん。「えっ、頂けるんですか」、青いパイナップルしか見てないのでビックリ。「とってあげるからちょっと待ってなさい」とお婆さんが、はしごをかけてとってきて、その場で切ってくれる。その美味しいこと。満面笑みを浮かべて、ほおぼる私達をみて、「そんなにおいしいの？もうじき、あれが食べられるよ」とまた、近くの木を指差して言ってくれるのです。「これは、お婆さんちのパイナップルですか」に「いや、あれは隣のものじゃ」に2度ビックリ。他家のパイナップルの熟れ頃まで知っているように、隣の部落の00家の次男は大阪で、何をしているとか、みんな分かっている。島から出た誰かが帰省すると、わが子のように喜んで迎えてくれます。

戦後8年間日本復帰が出来ず、台風銀座のこの島の学校は、ほとんど、かやぶきの掘っ立て小屋が教室だったそうですが、「子供達にはしっかり学問させなくては！」と義父は、亀津町立になる前の村立の学校で何カ月も無償で教壇に立ったと聞いています。このようなことから、一層一体感が強いのかもかもしれません。

「海がきれい！」「この狭い道路すてきね！」と歓声をあげる娘達をながめて、長老各の人は、「そんなに島が好きなら、好きな時帰っておいでよ。いつでも待っているからね。」と慈しみの目で言ってお下さるのです。タコ壺からつかまえたタコは浜でさしみに。喜念浜に行った日、徳之島高校生たちがごみ拾いをしていました。定期的きれいにしているそうです。蘇鉄トンネルを通り、戦艦大和の記念塔、ごみ一つない海岸で遊び、120歳で亡くなった世界一長寿の泉重千代さんの生家を見た。三女の婿の母(アメリカ人)は、「私がこんなにお楽しみが食べられると思わなかったわ」と言うほど、海の幸を頂くという数日間でした。徳之島は神仏混合で家では、仏壇に向って神官様が祝詞をあげます。お葬式だけでなく、法事のたびに、神官様がお墓で祝詞をあげた後、参列者は、お焼香ではなく榊を供えます。そして、お墓の周りにみんな座って、亡くなった方と一緒にご馳走をいただきます。このご馳走には、厚く切った豚の三枚肉を美味しく煮込んだものが必需品で、欠かせないそうです。この日はあまりにも暑かったので、お墓のすぐ下の公民館に席を移して、飲んだり、食べたりとなりました。神仏一体、分け隔てのない世界平和の基だと思いました。

ゆったりと流れた数日間が終り、盛大に手を振ってもらって機上の人となりました。娘達は「生命の洗濯ができたわね」「何度も来たい」と話しており、強制したわけでもなく、心の深いところで島のDNAは育っています。娘たちに故郷を遺してやれなかったと思悩んだことは、杞憂でした。主人の甥が、今は転勤で県内を移動していますが、いずれは島に帰る予定でいてくれて、娘達のふるすとは安泰です。

徳之島と海を隔てた奄美大島の名瀬に住んでもう半世紀が過ぎました。

ふる里徳之島の両親、兄弟、叔父叔母達も居なくなり近くて遠い故郷になってしまいました。

終戦直後に密航船で祖父母の住む井之川に一家七人でたどり着いたのは私が5歳のときでした。

神戸から鹿児島指宿までは陸路で、その後は小さな密航船で七島灘を越えての命がけの長い航海だったそうです。私の記憶は実体験か周りの大人たちの話から見たような錯覚におちいつているのか区別がつかない事もあります。母はヤマトウンチュでどんなに心細い思いで父についてきたことでしょうか。母方の祖母が「自分は泣いても子供を泣かすな」と言って送り出したと聞いています。

知り合いとてなく農業などしたこともない所へ来たのです。浜に出ては水平線に見える大島の山なみを眺めながら親姉妹恋しさに泣いた日もあったのだと話したことが思い出されます。そんな中雄々しく勇ましい井之川岳となだらかで優しい井之川の浜と海に癒されたことでしょう。

引き潮の砂に絵を描いたりぬれた砂でお団子を作って転がす「牛おうし」と言いながら団子どうしぶつつけて割れるまで転がしたことや、港で泳いでいると飛魚漁から帰ってきた大人たちが投げしてくれた透きとおった青い小さな魚をその場で頭と背骨をとって食べた味も思い出されます。雨の日は塩炊き小屋でままごと遊びをしたこともありました。

稲刈りの頃は浜一面にムシロを広げ金色の籾を干していました。突然の夕立に総出で籾を集めムシロをかぶせ雨から籾を守った頃の祖母、母、叔母たちの顔が浮かんできます。

一方子供たちだけで開かれる「うさきん浜」での運動会は上級生のお兄さんやお姉さんたちの言うことをよく守り統制の取れた生徒だけの自主運動会でした。宝島、伊宝、佐渡の熱い戦いに小学低学年生だった私たちも一生懸命でした。そして最も楽しく賑やかだった浜下りの親族ごとの「ヤドゥリ」が並んでいました。みんなが持ち寄った御馳走が並び新調した「浜下りぎん」を着せてもらい「夏目踊りで」村中が賑わいました。しかし今は護岸とテトラポットが占め懐かしいあの浜ではもうありません。それでも井之川岳は何時行っても優しく迎えてくれます。

住み慣れた井之川から亀津に引っ越したのは、母の助産婦の資格を生かした仕事を頑張ってもらうことにしたのです。私たち子供たちが大きくなり学費に現金収入が必要となり人口の多い亀津に行くことを両親は決心したとのことでした。おかげで私たち六人の兄妹はそれなりの学業をさせてもらいました。

当時はみんな自宅分娩でしたので夜中に呼ばれ帰ってくるのは夜明け前になることもありました。特に雨の日は大変だったことでしょう。その上家には三人の下宿人もいて長女である私は中学一年生の頃には家事のほとんどをしていました。母はのちに助産所を開設し70歳を過ぎるまで頑張りました。皆さんに「産婆さ産婆さん」と親しみを持ってよばれているようでした。その頃にお産をされた方は今でも産婆さんの「ゆーじるぬまーたんくと」（魚のお汁の美味しかったこと）という言葉聞きます。晩年には母は「あなたにはよく助けてもらったねえ」と思い出話に何度も出てきました。いったいどれほどの赤ちゃんを取り上げたか残念ながら記録は在りません。その母は九八才で天寿を全うしたのです。

八年前の暮れも押し迫った十二月二十九日のことでした。島にいる甥の知らせで私は何とかその日の飛行機に乗ることができ通夜の一夜は甥と二人で過しました。六人の子供を育てながら臨終に誰も立ち会えず一人で旅立たせたことに何度も詫びを言いながら夜明けを待ちました。

広島にいる私の長兄と東京に住む私の長男は考えられるだけの手段を使って搭乗券を求めて走り回ったようです。息子は空港のカウンターで泣きつき上司の人が対応してくれたそうです。事情をくんで下さり乗り継ぎで徳之島までのチケットを手にすることができ祖母の出棺にやっと間に合うことが出来ました。可愛がられた祖母との対面は時間に追われたお別れでした。兄もなんとか新幹線と飛行機を乗り継ぎ暮れの混雑の中をたどり着き母との別れができました。お葬式から三日目はもう新しい年でした。

それから3か月後の事です。いざという時こんなに大変な思いをして帰らなければならない離島の不便さに不安をいだいた息子は、長男である自分が親の近くに居なければと、東京の生活に別れ島に帰ってきてくれたのです。幸いIT関係の仕事で家で出来るので主人の不動産屋を時々手伝ってくれています。最も嬉しいことに知り合いの娘さんがお嫁に来てくれて幸せに暮らしていることです。このことは息子にとっても私たち夫婦にとっても幸せなことです。これは母が私たち夫婦への最後の置き土産をしてくれたのだと思っています。



## カラオケスタジオ『煌』

ぬ  
飲みちやあんどうきん、

もおちいたぼれ

徳之島料理が出る

居酒屋風の気さくな雰囲気。

住 所：埼玉県朝霞市三原2-34-25 斎藤ビル2階  
最寄駅：東上線朝霞台駅。JR武蔵野線北朝霞駅  
店 主：当山れい子(徳之島、天城町岡前出身)  
携 帯：080-1190-5338

夏目踊りは、井之川の人々の心に親睦と絆をもたらしてくれる祖先  
たちの魂の遺産。郷土のシマロ・伝統芸能で「心のシマ興し」

徳之島町文化協会 会長

徳之島町文化財保護審議会 会長

井之川高齢者クラブ 会長

町 田 進

〒891-7114 大島郡徳之島町井之川440

TEL&FAX：0997-82-1210 携帯：090-9603-1210

川崎市社会教育委員会議  
中原市民館専門部会委員



福 井 巖

Iwao Fukui

〒211-0004 神奈川県川崎市中原区新丸子東3-1204  
ブリリア武蔵小杉1806  
(電)044-820-6231 (携)080-6612-7226  
Email:iwao.fukui.lewis@gmail.com

地域と共に食文化の発展に貢献します。



食品  
情報  
マチダ商事  
製菓・製パン材料卸



菓子・パン材料のお店  
エム

代表取締役社長  
板山 孝司

〒890-0053 鹿児島市中実町36-16

TEL 099-253-3557(代) FAX 099-258-3990

URL <http://machidafood.com/>

MAIL [machida@misatsuma.jp](mailto:machida@misatsuma.jp)

## 株式会社マリンカーゴ沖縄

Marine Cago Okinawa Co.,Ltd.

代表取締役



宮崎 茂穂

MIYAZAKI SHIGEHO

国内全国へ車輛、バイクの輸送  
コンテナ販売、リース  
引越貨物、一般貨物輸送  
海外輸送(コンテナ、車輛、貨物)

〒900-0001 沖縄県那覇市港町1-16-10  
TEL:098-987-7337 FAX:098-987-7447  
H/P:080-1738-3192  
[s.miyazaki@marine-cargo.net](mailto:s.miyazaki@marine-cargo.net)  
<http://marine-cargo.net>

各種コンベヤー製造  
設計・据付・保守

しょうえいこうぎょう  
有限会社 **正栄工業**

当社では、コンベヤシステムのプランニングから設計・製作・据付・メンテナンスまでを行い、生産・物流ラインに最適なものをご提供いたします。豊富な経験ときめ細かくスピーディーな対応で生産性の向上に貢献し、常にお客様の視点で物事を考え、満足していただけるようなサービスを提供してまいります。  
そして、お客様とともに成長する企業でありたいと考えております。

代表取締役 **國元正俊**

- ◆旧徳之島高校  
**國元 繁** (亀津・昭45年生)
- ◆大島工業高校  
**徳 玲王奈**(名瀬・昭57年生)

〒661-0977 兵庫県尼崎市久々知2丁目26-6  
Tel:06-6491-5930 Fax:06-6491-7717  
<http://www.shoei-kogyo.jp/>



コンベヤのことならご相談下さい

NPO 法人 徳之島「夢」振興会議 フラワー委員  
下久志はつらつ会 会長  
徳之島警察生活安全モニター



HATAYAMA IKUO  
**畑 山 育 男**



〒 891-7115 鹿児島県大島郡徳之島町下久志 209  
携帯：090-3471-4700  
Mail:hatafuranhome481113@yahoo.co.jp



一般社団法人 **結いの島** シマ興士隊



- 東京本部 東京都文京区後楽1-1-13-6F TEL03-5577-3959 FAX03-5577-3944
  - 神戸支部 神戸市長田区久保町6-1-1-4-113 TEL078-754-6833 FAX 078-754-6832
  - 大島支部 奄美市名瀬港町6-26-1F TEL0997-58-8170 FAX0997-58-8171
  - 徳之島支部 大島郡徳之島町亀津7378 福本家具1F ■鹿児島・尼崎支部(準備中)
- ☞【業務案内】HP: <https://www.yuijima.com/> mail:[info@yuijima.com](mailto:info@yuijima.com)
- 奄美群島内/起業支援・事業支援 ●奄美群島製/物産販売支援 ●奄美群島内/伝統芸能支援
  - 奄美群島向け/観光案内・旅行支援 ●奄美群島向け/Uターン・Iターン支援

鹿児島にある自社工場にて製造！  
 最新のカタログ無料配布中！  
 大手の販売店様にも卸しています。  
**額縁、絵画、画材 全国販売**



定番の商品から  
 作品にあわせて額縁を  
 各種取り揃えております。

取締役会長  
**雪山 渥美**  
 代表取締役社長  
**雪山 大**

アルナ 額縁 検索  
<http://aluna.co.jp>

## 株式会社アルナ

本社 〒336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎2562-26  
 TEL 048-878-4811 FAX 048-878-4823  
 鹿児島工場 〒895-0052 鹿児島県川内市冷水町字上床551-7  
 TEL 0996-27-0881 FAX 0996-27-0882  
 福岡営業所 〒816-0922 福岡県大野城市山田4-18-3  
 TEL 092-592-0745 FAX 092-581-9088  
 メールアドレス: info@aluna.co.jp

# 表装修復

会長 雪山 渥美 **無料**  
 社長 雪山 靖 相談承り中！

**修復・額縁・額装・絵画・表装**

がくぶち屋の **雪山堂**

●本社・工房 〒336-0974 さいたま市緑区大崎2562-1  
**TEL 048-812-1341** 平日9:00~17:00 土日祝 定休  
 ●浦和店 〒336-0011 さいたま市浦和区高砂1-12-1  
 コルノ4F(伊勢丹) 浦和西口徒歩2分

●修復例の実例あり！ 雪山堂 検索  
<http://www.setuzando.co.jp>



# YWS Total Support Business 株式会社ユイワーク・サポート

代表取締役 **宮原たつ子** (天城町松原 出身)

〒141-0022 東京都品川区東五反田3-20-10-101  
 TEL **03-5449-8320** FAX **03-5449-0347**  
 Mail **info@yui-work.net**  
 URL **http://www.yui-work.net**

業 務 内 容	
業務代行サービス	・電話受付、通販受付等のコールセンター業務 ・テレワークを活用したコールセンター業務 ・データ入力および事務処理代行サービス
インターネット関連	・ホームページ制作 ・SEO等、IT関連サービスコンテンツの提供
その他	・NPO法人 徳之島「夢」振興会議 協力事業 (徳之島産直品《タンカン・マンゴー、黒糖焼酎 他 の物産》)

島の恵みを伝えたい。  
 島の恵を届けたい。  
 島の恵を残したい。

徳之島の原材料海塩・黒糖・モリンガオイル、ギニアのシアバターを使用した美容石けん(ゆいの島石けん)、オイルニチン・アセロラ・長命草エキス入りサンコンウコン

奄美海樹隊株式会社

代表取締役 **小林 正人**

本社：鹿児島県大島郡徳之島町亀津 3679 番地 8  
 東京支社：東京都葛飾区新小岩 1-56-14-307  
 メール：[amami-1009@mx2.alpha-web.ne.jp](mailto:amami-1009@mx2.alpha-web.ne.jp)

## T & T

株式会社 ティアンドティ

代表取締役  
**鶴野 忠光**

〒140-0013 東京都品川区南大井 3-7-2  
 TEL:03-5763-0202 FAX:03-5762-7517

大阪営業所 〒566-0033  
 大阪府摂津市学園町 1-6-23

TEL:072-630-6701 FAX:072-630-6702

## ～ 香港・マカオ 視察旅行記 ～

「夢」振 理事 (会計・物産販売担当) 宮原 たつ子

平成30年11月2日～5日(3泊4日)に品川法人会の関係で、研修を兼ねて香港・マカオに行ってきた。

世界の金融街を象徴する香港、カジノ一つで経済が成り立っているマカオの両国とも中華人民共和国の特別行政区(一国二制度)を取り入れているので、中国に返還後であっても中国人は、パスポートがないと入国出来ないようになっている。

32年前にシンガポールに仕事で行った際に立ち寄った当時の香港とは、空港・港等が新設され、海を埋め立てて島が拡大し、面積も大幅に増え、更に人口も増加傾向。

JETROの香港駐在員の方のご協力により、香港の概要や経済状況等について、聞かせてもらった内容に触れてみたいと思います。

### 香港の概要

香港の面積：1106k㎡(東京都の約半分)  
日本で一番狭い都道府県(香川県1876k㎡)  
より狭い、内約6割は山地。

行政：中華人民共和国香港特別行政区  
(1997年7月1日、英国から返還され、  
香港基本法に基づき、変換後50年間  
(2047年度迄)「一国二制度」を維持。

通貨：香港ドル 1米ドル=7.75～7.85香港  
ドルの幅を持つ固定相場制。

### 香港の機能

- ①世界の貿易・物流センター
- ②アジアを代表する国際金融センター
- ③中国ビジネス・アジアビジネスにおける重要拠点。

人口：740万9800人(2017年12月時点)

香港の人口は引き続き増加。2014年～2024年の10年間で約50万人増加の見通し。香港でも高齢化が進展。2020年代には65歳以上の人口は20%超に2030年代半ば以降は30%以上に上昇する見通し。

邦人数：25,527人(外務省2017年10月時点)うち、永住者数は2190人。

香港における日系企業数：1378社(2017年6月時点)

(現地法人、支店等何らかの営業拠点を持っている企業数)

### 経済の規模・産業構造について

不動産、金融、貿易分野が経済の主力

名目GDP 2兆6626億HKドル(17年) 一人当たりGDP 36万220HKドル(17年)

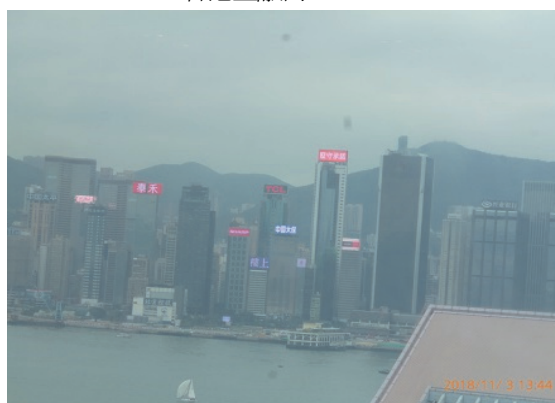
### 経済成長率

中国からの観光客の減少もあり、2014年から3年連続で成長率は減速も2016年第二四半期以降は回復傾向。2018年第一四半期は4.6%と7年ぶりの高水準に。以降は米中の貿易の影響を受けると予想。

日本への輸出(2016年)

再輸出品上位10品目 総額121,724百万香港ドル

香港金融街



香港原産品上位 10 品目 総額 1,047 百万香港ドル

日本からの輸入 (2016年)

上位 10 品目 総額 260,294 百万香港ドル

香港は、13年連続で日本にとって最大の農林水産物・食品の輸出先

### マカオの最新事情

1513年にポルトガル領になり、1999年中国へ返還

人口 65 万人 1 平方m当たりの人口 マカオ 23156 人、香港 6687 人、日本 335 人

人口の 5 倍の観光客で観光立国

マンション 2 LDK 1 億円 頭金 30%必要

初任給 18~21 万 アルバイト時給 700~1100 円 **カジノ 2100 円**

マカオは地域全体を滞在型リゾートとし、健全化、安全化し、滞在可能なエンターテイメント施設化を志向した。また、マカオのカジノ産業の制度の整備と透明性の確保、安全な運営体制を構築し、中国の経済発展や中国国民の富裕化に伴い、それらのニーズに上手く適応した。中でも中国本土からマカオを訪問する中国人のビザ発給要件を緩和したことが挙げられる。

### カジノ視察

複合リゾート&ホテルが立ち並ぶコタイ地区は一大リゾートエリアで、ザ ベネチアン マカオをはじめ、複数のホテル一体型のカジノリゾート施設があり、ホテルを中心に買物、食事も充実した複合リゾート。そのうちの一つであるハリウッド映画をテーマにしたタイパ・スタジオシティのカジノ見学をし、そのスケールの大きさには、圧倒されました。残念ながら、施設の中の写真撮影が禁止となっており、写真が撮れなかった事です。

カジノだけで経済が成り立っていると言っても過言ではないカジノ観光立国に魅了されたもう一点は、カジノ収益で国民一人当たり、年に1回約15万円前後の配分があるという事でした。周囲約30分で回れる小さな島に65万人もの人口がひしめき合い、香港と同じく海を埋め立てて人工島で面積を増やしているのが特徴的でした。

私たちの故郷「徳之島」はマカオの約3倍の広さに人口23000人しか住んでない。

どうして徳之島の1/3程度の島に65万人もの人が住めるかと言うと、全て高層住宅にして

日本のように一軒家なるものはない。

ふと、思い描いた私の考えですが、天城町の平土野の町は、今や風前の灯状態。

平土野港には、豪華クルーズ船も入港出来、空港もすぐそばにある絶好の環境にある。

平土野の町をマカオのように滞在型リゾート地として複合型施設に再開発し、住宅、ホテル、ショッピング、飲食街、映画館、劇場、スポーツ施設やスパ等、それにカジノを持って来て、沖縄に来島してる中国人、台湾人、その他クルーズ船などの観光客を呼び寄せる事が出来れば、

観光はもとより、雇用促進、人口増になり、税収も増えれば、徳之島全体が潤うのではないかと想像を膨らませ、夢や希望につなげる体験旅行になりました。



マカオのシンボル グランド リスボア  
高さ 261m



カジノ イン ベネチアンホテル

## 徳之島産 黒糖焼酎のご案内

長寿世界一「泉 重千代」翁も毎晩愛飲された徳之島の自然の恵みをいっぱい浴びた「さとつきび」から作られたミネラル豊富な黒糖焼酎！

奄美 30度		奄美パック 30度		奄美パック 25度		煌めきの島 25度	
							
6本入	12本入	6本入		6本入		12本入	
1800ml	¥14,904	1800ml	¥14,256	1800ml	¥12,636	900ml	¥15,292
900ml	¥16,848						

ブラック奄美 40度		あじゃ 30度		島のナポレオン 25度		ルリカケス 40度	
							
6本入		6本入	12本入	12本入	30本入	6本入	10本入
720ml	¥15,552	1800ml	¥14,249	900ml	¥14,320	1800ml	¥20,400
		900ml	¥14,281	300ml	¥14,839	900ml	¥19,800

お問い合わせ

注文先: NPO法人 徳之島「夢」振興会議  
酒類販売責任者: 宮原 たつ子



住所: 東京都品川区東五反田3-20-10-101 (株)ユイワーク・サポート内  
電話: 03-5449-8321 (夢振専用) FAX: 03-5449-0347 (ユイワークと共有)  
mail: bussan@tokunoshima-yumeshin.or.jp http://www.tokunoshima-yumeshin.or.jp

注文方法: 電話・FAXまたはメール ※ご注文は1ケース単位となります。  
支払方法: 郵便口座へ送金 (発送時に郵便振替用紙を同梱)  
※別途送料がかかります。

その他「徳之島産直品」に関しては、(株)ユイワーク・サポートが夢振協力事業としてお取扱い致しております。

販売時期	商品名
2~3月	たんかん・ジャガイモ
6~7月	パッションフルーツ
7~8月	完熟マンゴー・パイナップル・ドラゴンフルーツ
10~11月	シークワーサー
通年受付	黒糖セット・有機栽培グアバ茶及びピワ茶・べにふうき茶等 その他 サンコンウコンドリンク



皆さん是非徳之島物産品を飲み、食べ、お土産に差上げて徳之島の農家及び産業を育成して行きましょう。一人ひとりの行動が大きな力、うねりになり、産業が活性化します。どうですか、毎月1日は故郷の食材を1品食卓に並べて見ませんか。そこからUターン、Iターンは生まれ人口増や時々帰りたくなる活気溢れる徳之島が誕生します。

徳之島×武蔵野大学プロジェクト

寄付金ご納入方法

(銀行振込)

★振込人名入力の際に、お名前の頭に「トクノシマ」をご入力下さい。

例)「トクノシマ 氏名」

下記口座へお振込みください

下記口座にお振込みください

〔振込口座〕 三菱東京 UFJ 銀行吉祥寺駅前支店  
銀行 No.0005 支店 No.365  
普通 No.5243802  
学校法人 武蔵野大学  
専務理事 田中教照 (タナカ キョウショウ)

個人による寄付の場合、寄付申込書をご提出いただきますと、領収証と税制上の優遇措置を受けるために必要な証明書(写)をお送りいたします。

税制上の優遇措置(個人の場合) 寄付者の選択によりどちらか一方の制度で申告することが認められています。

① 所得控除制度

[所得控除額] = 寄付金額 (総所得金額等の40%が上限) - 2千円

確定申告の際に本学院からの領収証と特定公益増進法人証明書(写)を所轄税務署にご提出ください。

② 税額控除制度

[税額控除 (所得税額の25%が上限)] = (寄付金額 (総所得金額等の40%が上限) - 2千円) × 40%。

確定申告の際に本学院からの領収証と税額控除に係る証明書(写)を所轄税務署にご提出下さい。

ご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

～お問い合わせ～

武蔵野大学 教育改革推進室 駒宮 知恵 (こまみや ちえ)

東京都江東区有明3-3-3 TEL03-5530-7729 FAX03-5530-3812 <http://www.musashino-u.ac.jp>

(株)永瀆木材 代表取締役 永瀆 隆史氏の発案がこのような大きなプロジェクトを動かしました。上記口座は武蔵野大学さんの、この行動に感謝の意で、「夢」振サイドより依頼して開設して頂きました。

「夢」振 事務局より徳之島関係者へお願ひ

武蔵野大学さんは産官学連携を大きな柱の一つに掲げ、我が故郷徳之島活性化(徳之島ナビ作成・農産物改良・農産物販販方法の開発・自然遺産登録を控え観光事業PR等々)に向けて、2015年度より以後10年間に亘って代わる活動を展開しています。

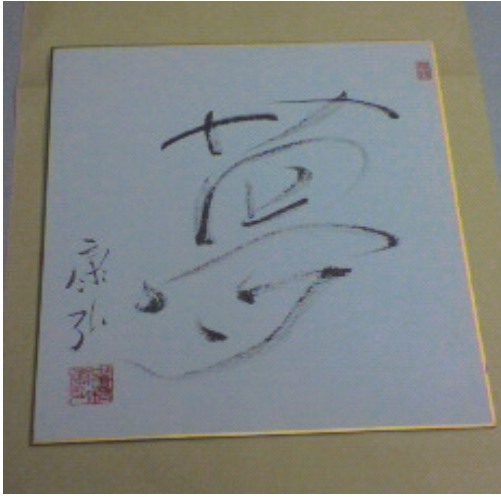
私たちの心の支えである故郷が、この事業によって新しい徳之島、夢溢れる徳之島に生まれ変わると想像しただけで嬉しく心が豊かになりませんか。

私たち徳之島出身者として、誠にありがたく、感謝の気持ちを言葉だけでなく、形の上でお応えするとしたら浄財、その他で側面から支えて行くのが一番と考えます。

1,000円でも結構です。是非上記口座へ振込んで支援の輪を広げて行きましょう

毎年大勢の学生さんたちが徳之島の為に、自費で自炊しながら活動を展開していきます。故郷在住者は野菜、果物、お茶菓子の黒砂糖等等を差し入れて皆さんを励まして頂きたいと思ひます。

※ まだまだ我々のPR不足で十分に浸透されておりません。武蔵野大学さんのこの活動に徳之島関係者の感謝の気持ちを是非形で表し、学生さん達の熱い心意気に側面から応援致して行きましょう。



第71代～73代 内閣総理大臣 中曽根 康弘 先生から「夢」振 10周年 お祝いメッセージの色紙です。

土屋 光男 氏(当時の徳田 昌則 理事長の友人)の依頼で、書いて頂いて贈呈されました。

## NPO 法人徳之島「夢」振興会議

### 入会のご案内

- ① 島のフラワー運動に対する協力事業
- ② 島の特産品 PR 及び販売協力事業
- ③ 島の観光開発協力事業
- ④ その他島興しに役立つ関連事業 (例えば研究・調査)

#### 年会費

正会員	5,000 円
青年会員 (30 歳未満)	3,000 円
賛助会員	個人 1 口 1,000 円
	団体 1 口 10,000 円
協力会員 (作業の協力)	年会費 ナシ

### 「夢」振だより 編集後記 (事務局長 松元 啓一郎)

- ★ 本会報誌 17 号より新事務局長に就任した松元啓一郎が担当します。
- ★ 恒例行事になった関東徳洲会企画の 2 月第 3 日曜日東京代々木公園イベント広場に於ける徳之島のおいしいジャガイモ「春一番」を始め、徳之島物産展は故郷に帰ったような雰囲気です。沢山の徳之島出身者が集い、同窓会の開催や故郷の懐かしい歌を三味線の音色と共に聴き、踊り、故郷の味もキビジュースを始め沢山楽しめますよ。
- ★ 武蔵野大学さんは徳之島の為に数年前から 10 年間多くの学生達が徳之島で活動しています。私共徳之島出身者も何とか、そのご恩に報いてやりたいものです。皆様のご協力 (寄付金での) を宜しくお願い致します。
- ★ 本 17 号は 10 月故郷で大きなイベントが有、例年より遅く発行しました。ご了承下さい。また、故郷中心の内容にしております。
- ★ 皆様の友人、知人を是非ご紹介下さい。「夢」振の会員をもっともっと増やしたいと考えております。
- ★ 2018 年 12 月 16 日午後 2 時～ホテルニューオータニ イン東京 (JR 山手線大崎駅北改札口徒歩 1 分) で「夢」振 2018 年度の臨時総会兼忘年会を開催致します。友人・知人お誘いして是非ご出席お願い致します。尚、準備の都合上ご出席のご連絡は 12 月 10 日までに電話・メール・FAX 等で宜しくお願い致します。
- ★ パソコンのメールアドレス保持者はメールアドレスを事務局へ連絡して頂ければ、随時「夢」振情報を流します。